

## 真っ黒な理由！



木戸良彦 (春秋会)

私は、今、皆様がビックリするくらい真っ黒です。この会報が発行される頃には、さすがに色が落ちていたと思いますが、今はおそらく弁理士でも1・2を争うくらい日焼けしていると思われま

すが、決してハワイに行ったり、グアムに行ったりしたわけではありません。MADE IN CHIBAの日焼けであります。

学生時代から歩く高気圧と呼ばれる晴れ男であり、遊びに行くときには雨が降った記憶がほとんど無いため、アウトドアのアクティビティばかりが趣味となり、アカデミックな趣味はほとんどございません。

そのため、非常に下らない文章となっておりますが、自己紹介を兼ねて、私がここまで真っ黒に日焼けした二大要因を紹介したいと思います。

### 1. ゴルフで日焼け！

今年のはじめ、2005年はゴルフの飛躍の年にしようと思決意しました。諸先輩の先生方からは、「何を考えているんだ！まじめに仕事をしろ。」とお叱りを受けるかもしれませんが、僕の経験からスポーツは一気に上手くなった方がよいと考えております。

だから、今年はゴルフの誘いを、ゴルフの予定が入っていない限りは断らないと誓っております（もちろん、仕事等でお断りする場合もございます…）。そして、昨今のゴルフブームに乗っかってはじめて大学時代の仲間と年間40ラウンドを目標に、狂ったように毎月ラウンドをしております。

しかしながら、金銭的な限界もありますので、できるだけ安いパブリックのゴルフ場を常に探しております。インターネットのオンライン予約で割引クーポンを駆使して、1～1.3万円でラウンドできるコースを見つけては出かけております。交通費を浮かせるために仲間の家で合流して1台の車にしたり、

できるだけ1.5ラウンドをまわってラウンド数を稼いだりと、目標達成に向けて小さな努力をしております。

千葉（特に、木更津・君津周辺）のコースは、夏は気温が35℃を超えるため敬遠されがちであり、比較的空いていて、しかも値段も安く予約することができます。そのため、今年の夏は何度も何度もアクアラインを渡りました。ETC割引をかなり有効に使っているのではないのでしょうか。

ところで実際の腕前の方はというと、まだまだ伸び悩んでおります。飛ばし屋であるのですが、ショートホールを除く14回ティーショットを打っても、真っ直ぐ飛ぶのはせいぜい2・3回です。残りは、前に200ヤード、右に100ヤードの300ヤードのビックスライスショットです。「ファー」と叫びながら、隣のコースのフェアウェイをキープすることもしばしば。時には、写真のように、必死に池に落ちたボールを拾っております。

コース慣れしてきたこともあって、アプローチやパターがだいぶ安定してきましたので、何とかスコアも90台でまとまっておりますが、飛躍の年と位置づけた割には、物足りない結果となっております。課題ははっきりしておりますので、秋からの涼しい季節に更なる成長ができればなと考えております。



## 2. 海で日焼け!

私が真っ黒になる理由のもう一つは、海での日焼けによるものです。海と言っても、白いビーチもビキニ姿の女性も存在しないというトロピカルという言葉とは無縁の海です。

以前、春秋会の会報にも紹介させていただいたことがあります。毎年、中学時代の母校、慶應義塾普通部の水泳学校をコーチとしてお手伝いさせていただいております。

今年も7月28日～8月1日に千葉県館山市の見物海岸で開催され、中学の生徒約200名と、高校生から60歳を超えるOBコーチ約50名が参加しました。そして、私の母校は男子校ですので、合計250名が男性であります。しかも全員、競泳型の水着を着ております。250名の男性で埋め尽くされた砂浜は、もはや美しさの欠片もございません……。

水泳学校の最終的な目標は、生徒が隊列を組んで泳ぐ1キロ、3キロ、5キロメートルの遠泳であります。近年は、私の後輩も増えてきましたので、生徒の隊列の伴泳をするのではなく、船の上から隊列を見守ることも多かったのですが、今年は先輩に「お前も泳いでこい!」と命令を受けて、生徒の隊列の中に船から落とされてしまいました。久々にヘトヘ

トになるということを実感いたしました。

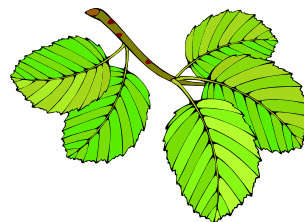
さて、水泳学校のコーチは翌日の運営の準備に追われて、ほとんど寝られません。また、コーチが泊まる民宿はクーラーもあまり効きませんし、お風呂等のアメニティが充実しているわけでもありません（今年から、コーチの強い要望でウォッシュレットのトイレが導入されました。）。周りを見渡しても真っ黒に日焼けしたむさつくるしい男しかいませんし、まさに疲労困憊にもなります。

こんな水泳学校に毎年何で参加しているのだろうと自問自答をしながら、今年も参加してしまいました（単なるマゾであるのかもしれませんが……）。

これで、私が真っ黒な理由がいくらか分かっただけだと思います。皆様が弁理士会館周辺で、異常に日焼けしている人間を発見したら、おそらく私だと思います。

日焼けをしているとお客さんからは遊んでいると思われてしまうので、あまり得したことはありません（実際、遊んでいるのですが……）。

ただし、ポッチャリ型の私ですので、隣にいる女性は、もれなく無条件で色白瘦身美人になれるという特典がございます。



## 愛地球博・感動の企業パビリオンを振り返る



磯貝克臣（春秋会）

この文章を皆様がお読みになる時には、すでに愛地球博（愛知万博）は閉幕しているでしょう（閉幕予定日は9月25日（日））。また、すでに愛地球博に出かけられた方も、長時間並ばなければ観覧できない企業パビリオンは、ほとんど回れなかったのではないかと思います。

私は、名古屋出身なのですが、約2年半前から、諸事情のために、月1ペースで週末に実家に顔を出し生活を送っておりまして、その週末の空いた時間（特には早朝から昼まで）に愛地球博に出かようと、シーズンパスを購入いたしました（シーズンパスは、4回行けば元が取れる値段）。そして、実家の玄関から愛地球博の北ゲートまで、片道約1時間、往復交通費約1,200円、という恵まれたロケーションのおかげで、主だった人気パビリオンのほとんどを観覧することができました。

そこで、この紙面をお借りして、皆様方に企業パビリオン観覧で得た感動等についてお伝えしたいと思えます。私の文章から、愛地球博において披露された最先端のエンターテインメント技術のレベルを想像して頂ければ幸いです。

### <企業パビリオン>

#### 1. 日立グループ館

最初のゾーンでは、携帯用のディスプレイを借りて、希少動物の情報を勉強いたしました。美しい画像と多過ぎない説明文とは、勉強嫌いの子供にとっても嫌味の無いものであり、情報アクセスのために体を使わせることがアクセントとなって、森の中を冒険しているような気分が自然に盛り上がってきました。

そして、メインのゾーンでは、移動する「ライド」に乗って、バーチャルな動物たちと触れ合いました。3D映像とハンドセンサとの見事な融合は、サファリパークにいるような錯覚させ覚えるもので、バーチャルリアリティの技術はいよいよここまで成熟し

てきたのか、と心底感動いたしました。

#### 2. トヨタグループ館

楽器演奏ロボットのショーで始まる一連のエンターテインメントは、芸術性の高い見ごたえのあるもので、さすがにトヨタと唸ってしまうのに十分なものでした。

「i-unit」なる1人乗り車や、「i-foot」なる1人乗り歩行ロボットは、性能的にはすでに実用レベルにあることが印象付けられ、その技術力には「さすが」と思いました。その一方、全体の演出は、非技術者である消費者を十二分に意識したもので、「技術」そのものではなく「技術」がもたらす結果である「美」とか「感動」といったものに重点が置かれており、スマートで後味のよいものでした。

#### 3. 三井・東芝館

自分の顔写真が瞬時にCG化され、CG映画に登場するという「ヒューチャーキャストシステム」。画像処理技術の進展もここまできたのか、と感動いたしました。

顔写真は、複数の角度から複数枚が撮られ、それに基づいてCG映画の中の顔が作られます。当該顔の表情が、CG映画のストーリーに合わせて、種々作られる訳です。

私のCG画像は、かなり格好よい配役で登場したので、大変気分がよかったです。私の顔が他人の声で喋るというのは、ちょっと奇妙な感じがありました。

#### 4. 三菱未来館

4ヶ国語を話す黄色い接客ロボット「ワカマル」のウェルカムショーの後、ニールFカミンズ教授著の「もしも月がなかったら」を基にした映像世界に導かれました。

プレ映像ショーで月の誕生の解説を受けた後、IFXなる巨大シアターで、月が無かった場合の地球の状態を描く迫力の映像を体感しました。

### 5. JR東海超伝導リニア館

メインの3D映像は、鉄道好きの私が見ても今一つ見ごたえに欠けるもので、もっと迫力ある映像構成にできなかったのか、と期待外れのものでした。

しかし、併設のラボ館での技術説明は、難解な技術内容を分かりやすく説明しようとする工夫に満ちていたし、リニアモーターカーの模型の走行は、リニアモーターカーの走行イメージを湧かせるのに十分でした。

### 6. ワンダーサーカス電力館

電車型のライドに乗って、順に展示物を見ていくものでした。日本の四季の美しさ等を表現した種々の展示物は、様々な趣向が凝らしてあり、最初から最後まで飽きることのない見ごたえのあるものでした。

建物の外装の華やかさからは、子供向けの館というイメージを強く受けましたが、大人の鑑賞にも十分堪える充実した内容でした。

### 7. ワンダーホイール展覧車

「ラスコーの壁画」等、過去から現在を経て未来へいたる人類の歩みを動画で紹介された後は、屋外に出て万博会場の全景を見るという、観覧車タイプのショーでした。

万博会場には、有料の巨大観覧車も別にあるのですが、この観覧車でも十分に万博会場の全体を感じることができました。



大観覧車より

### 8. ガスパビリオン

炎をテーマにしたマジックショーは、子供向けのエンターテインメントでした。

ショーの後の展示ホールでは、メタンハイドレート等が紹介されていました。

愛地球博では、以上のような企業パビリオンの他、各国パビリオンにも人気のパビリオンがありました。長久手日本館の球形スクリーンでの360度の映像体験は、文字通り映像に包まれるものであり、迫力満点で、とにかく素晴らしかったです。また、ドイツ館は、ミニジェットコースターのようなライドに乗って種々の展示物を観覧するというもので、連日3時間を越える待ち時間を記録するものでした。韓国館の3Dのアニメは、新聞等でも高く評価された通り、芸術性の高い素晴らしいものでしたし、フランス館のキューブシアター（床、横壁、天井がスクリーン）での映像も、やはり芸術性の高い素晴らしいものでした。

その他、展示される物自体に高い人気があったパビリオンとして、グローバルハウスの冷凍マンモスは、迫力あふれるものであったし、世界最大の万華鏡である大地の塔は、男の私もしばらく見入ってしまうものでした。また、イタリア館のブロンズ像「踊るサチュロス」は、本当に神秘的なものでした。

東京ではあまり話題にならなかったように思われる愛地球博ですが、さすが万博という内容であったことは間違いないと思います。何度も足を運ぶことができ、私は本当にラッキーでした。

この文章によって、今年は愛地球博開催の年であった、ということが皆様の中ですれすれでも強調されたとすれば、愛知県出身者として嬉しく思う次第であります。



ショップの前で（娘と）



## 一步間違えれば……



太田昌孝 (春秋会)

私の趣味の一つに、スクーバダイビングがあります。私がスクーバダイビングを始めたきっかけは、今でもとても仲良くさせて頂いている先輩です。以前私が某企業に勤めていたとき、ある日、営業所のU先輩に強制的に連行されました。着いた先は、某ダイビングショップ。そこで、何がなんだか分からないうちにオープンウォーターダイバーコースの申込書にサインをさせられ、あれよあれよという間に、見事Cカードを取得し、ダイバーになっていました。

こんな経緯で始めたスクーバダイビングですが、今ではかなり海中の世界にはまってしまい、色々な場所に潜りに行きました。そのときの話をここでしたいと思います。

和歌山県、紀伊半島の先端に本州最南端の地「串本」という場所があります。ダイバーにとってはかなり有名な場所なのですが、一般的にはあまり知られていないようです。この串本は、太平洋に面しており、すぐそばを黒潮が流れているため、一年を通して水温が高めであり、南洋系の生物がたくさん見られるポイントとしても有名です（伊豆ではなかなか見られない生物がたくさんいます）。沖縄や海外等のリゾートに行けば、いくらでも見られる生物たちなのですが、本州で見られるというのが、そそられるんですね。

私は、以前から串本で一度だけでもいいから潜ってみたいと思っており、ついに、一昨年の夏に念願がかなう行くことができました。

まず、串本に行くにあたって、交通手段はどのようにかと考え、どうせ気ままな一人旅だし、車で行ってみようと思い、朝8時に車に荷物を積み込み出発しました（ちなみに、私の家は埼玉県です）。平日だったため、車で通勤する方々もチラホラと見受けられ

る中、東名高速東京インターから一路串本へのドライブが始まりました。

埼玉県から、東京都、神奈川県を通り過ぎ、ちょうど午後12時を過ぎた頃、やっとのことで静岡県の日本平サービスエリアに到着しました。そこで軽く昼食をとり、先を急ぎます。次のサービスエリア、浜名湖サービスエリアに到着し、サービスエリアから見える浜名湖に感動しつつ、串本目指して車を走らせました。

やっとの思いで横に長い静岡県を通過し、愛知県に突入です。だんだんと名古屋に近づくにつれて車の通行量も増えてきて……。しかし、なんで名古屋の人は、高速道路で車線変更するときにウィンカーを出さないのだろう……。という疑問を抱きつつ（本当に誰一人としてウィンカーを出して車線変更する人がいませんでした。たまたまかもしれませんが……。）、愛知県を抜けて三重県に突入しました。

三重県の伊勢道を順調に走り、勢和多気インターで高速道路が終了しました。あとは国道をひた走りすれば串本に着くなあ、なんて軽い気持ちで車を走らせていました。ところが、現実とはまったく違いました。高速道路では、東京から三重県まで一切渋滞がなく、楽に運転できたのですが、下道が長いこと……。結局朝の8時に自宅の埼玉を出発し、高速道路を下りたのが午後2時半、串本に着いたのが夜8時。12時間、昼食とトイレ休憩以外は車を走らせ続けて、しかもそのうちの約半分は、三重県で高速道路を下りてから串本までの下道を走っていたのです。朝出発するときは元気でしたが、さすがに着いた頃には夕食を食べる気力もなく、そのまま爆睡したのでした。

次の朝、朝食をとった後、予め予約してあった現地のダイビングショップに行き、やっとのことで念

願の串本ダイビングのスタートです。ダイビングショップで諸手続をし、車に乗り込んでいざ港へ。一本目は、グラスワールドという名のポイントです。エントリー後、まず驚いたのは、透明度がいいことです。普段伊豆で潜り続けている私からしたら、透明度が15~20mもあったらかなりいいコンディションなのですが、かるく25~30mは見えていました(後で聞いたら、台風の影響で多少濁りが入っていたらしいです。コンディションのいいときは、どれくらいの透明度があるのだろう…。)。本州にいながらリゾートダイビングの雰囲気を楽しむことができました。そして、伊豆では見かけることのない生物たちがわんさかといいて、かなり興奮してしまいました。



このとき、初めてハタテハゼに会いました。ハタテハゼを含め、ハゼの仲間の多くは、自分の巣穴の上でゆらゆらと泳ぎつつ、危険を察知するとさっと巣穴の中に隠れてしまいます。そのため、気付かれないようにそっと近づき、やっとの思いで撮影することができました。ただ、このグラスワールドというポイントには、ハナヒゲウツボというウツボの仲間がいるとの事前情報があったのですが、この日は会えず…。2本目でも会うことができませんでした。残念でしたが、「まだ明日があるさ」と自分に言い聞かせ、この日は透明度のいい海への感動を胸に就寝したのでした。

次の日、「今日こそはハナヒゲウツボに会うぞ」と強い気持ちとともに1本目はグラスワールドです。エントリー後、早速いました！ハナヒゲウツボです。



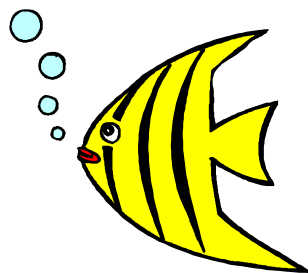
このハナヒゲウツボも臆病な性格で、むやみに近づくとすぐに巣穴に隠れてしまい、なかなか出てきてくれません。そのため、例によって、気付かれないようにそっと近づき、なんとかカメラのシャッターを押しました。しかし、この日は台風の影響でかなりうねりが入っていて、カメラを構えながらも自分の身体はゆらゆらと揺られ、思うようにピントを合わせることができません。何枚撮ったかも忘れるぐらいの枚数を撮影し、やっと撮影に成功しました。

そして、2本目。今回の串本でのダイビングの最後の1本です。最後のポイントは吉右衛門というポイントです。このときの串本は、台風の影響で行くことのできるポイントが限られていたのですが、この吉右衛門が、このときに行くことのできたポイントの中でも一番台風の影響が出やすいポイントです。なんとかボートをアンカーで固定し、いざエントリーです。今回最後のダイビングを満喫しようと、色々な生物を観察し、撮影し、海中散歩を楽しみました。あっという間に時間が過ぎ、エキジットしなければならなくなりました。このとき事件が起こったのです。なんと、ボートが止まっているはずの場所に帰ってみると、ボートがいません。流れが強かったため、私達がダイビングを楽しんでいる間に、アンカーが外れてしまいボートが流されてしまったようです。それから一転して、ボート探しの旅が始まりました。それから約10分後、なんとかボートを探し出し、「ああ、良かった～」とホッとしたのも束の間、自分の残圧計を見たら、なんと残圧が20を切っ

ているのです！もうすぐタンク内の空気がなくなってしまいう状態です。しかも、このとき、あまりにも深い場所に長時間いたため（ボートを探す時間が余計だったのですが…）、減圧停止をしなければならない状態で、私のダイブコンピュータは「深度5mで7分間待機」と出ていました（これを守らないと、減圧症という重篤な病気になるおそれがあります）。ここから、残圧計とダイブコンピュータとのにらめっこが始まります（このときほど時間が経つのが遅いと感じるときはありませんでした）。しかし、あと2分という状態でとうとうエアが切れてしまいました。そのとき一緒に潜っていたガイドは、10mぐらい向こうでゆらゆらと遊んでいます。最初は、必死にハンドシグナルでエアが切れたことを伝えよう

としていたのですが、ガイドは近づいてくる気配をみせません。このままだとエア切れで死んでしまうと思い、必死にガイドのもとへ猛ダッシュ。なんとかエアをもらうことができ、無事にエキジットすることができました。

今でも、暇を見つけてはダイビングをしに色々な場所に行ってお楽しんではいますが、このときの「死ぬかも…」という気持ちは今でも忘れていません。ダイビングは、基本的には安全で楽しいスポーツではあるのですが、自己管理を怠ると危険なことに遭遇することもあります。悲しいことに、毎年のように水難事故は起こっていますが、このときの気持ちを忘れずに、いつまでも素晴らしき海の世界と付き合っていきたいと思います。



## 「プロ」として

鈴木啓靖 (春秋会)

私の大学時代の後輩であるY君と、私の高校時代の後輩であるK君の話をしたと思います。

Y君の職業は、プロ雀士（麻雀のプロ）です。プロ麻雀界には、いくつかの団体が存在しており、Y君はそのうちの一つに所属しています。プロ雀士になるためには、所属しようとする団体が主催する試験を受け、その試験に合格する必要があります。試験に合格すると、まず最も下のCリーグに配属され、Cリーグの中で勝ち上がると、Bリーグに昇格し、Bリーグの中で勝ち上がると、最も上のAリーグに昇格します。Y君は、昨年度晴れてAリーグに昇格し、今年度苦戦しながらもAリーグ残留を決めました。Y君曰く、Aリーグの面々はさすがに強いそうです。

プロ雀士はプロ棋士（将棋又は囲碁のプロ）と異なり、対局料だけで生活していくのは難しく、多くのプロ雀士がそうであるように、Y君も雀荘でお客様相手に麻雀を打つ仕事（巷では「雀荘のメンバー」と呼ばれています）で生計を立てています。しかし、麻雀は偶然が支配する割合が大きいゲームであるため、プロ雀士といえども、連戦連勝というわけにはいきません。負ければもちろん自腹を切らなければならないので、雀荘のメンバーによる収入はそれほど多くはないようです。ただ、Y君の場合、麻雀雑誌にコラムを連載していますので、他のプロよりも収入が安定しているかもしれません。

プロ雀士だから当たり前といえば当たり前なのですが、Y君は麻雀が大好きです。Y君は、雀荘での仕事を終えた後、時間があれば、他の雀荘に今度はお客様として麻雀を打ちにいきます。雀荘での仕事が休みの日も同じです。Y君を見ていると、「好きこそ物の上手なれ」を実感します。Y君は、Aリー

グのプロ雀士ですから、麻雀の腕はもちろん素晴らしいのですが、ツキの太さもなかなかのものです。こんなに麻雀が大好きなY君は、きっと麻雀の神様から愛されているのでしょう。

一方、K君の職業は、パチプロ（パチンコ・パチスロのプロ）です。パチンコ・パチスロで生計を立てているからパチプロなのですが、パチプロには資格というものはありません。

K君の月収は多いときには100万円を超えるそうです。もちろん、犯罪に該当するような不正な行為を行っているわけではありません。パチンコ店に新しく導入されたパチンコ・パチスロ台のゲーム性をいち早く理解し、それを活かした立ち回りでそれだけの収入を得ているのです。K君はとても研究熱心で、あらゆるパチンコ・パチスロ台のゲーム性について精通しています。

しかし、K君は、パチンコ・パチスロが嫌いと言います。K君はパチンコ・パチスロに常勝はあり得ないことを誰よりも理解しているがゆえに、そう言うのです。きっと、K君は、パチンコ・パチスロの面白さとともに、パチンコ・パチスロの恐ろしさを誰よりも味わってきたのでしょう。

自分が生業としている麻雀が大好きなY君の姿も、「プロ」としてあるべき一つの姿でしょうし、自分が生業としているパチンコ・パチスロが嫌いなK君の姿もまた、「プロ」としてあるべき一つの姿でしょう。

一見、人生の裏街道を歩いているY君もK君も、「プロ」としての自覚を持って自分の生業を全うしています。それに対して、弁理士として、一見、人生の表街道を歩いている私はどうでしょう。ただ、ただ、日々の業務に追われ、漫然と日常を過ごして



いるだけで、「プロ」としての自覚を持って自分の生  
業を全うしていると胸を張って言うことができるか、  
少し不安です。

「職業に貴賤はない」と言いますが、まさにその  
通り。重要なのは、「プロ」としての自覚だと痛感し  
ます。



## 最近思うこと

須永 浩子 (稲門弁理士クラブ)



こんなに、生活に密着した奥の深い未開拓分野があったとは。これは子供を出産し新米の母親となった時点での、率直な感想である。社会に出てから10年以上が経ち、それなりに社会についてある程度のことはわかってきたかなと思い始めていたが、出産後それは大いに間違いであったことに気付かされた。

既にご経験のある先輩方には当然のことであろうが、乳幼児をかかえての生活は、子供にふりまわされる日々である。毎日が授乳・離乳食作り・オムツ換え・洗濯の繰り返しで、自分の時間は殆どない。かといって、子供に効率良く生活して下さいと頼んでみても所詮無理である。従って、いかに自分の時間を確保するかと家事・育児の効率化は背中合わせであり、どうすれば効率よく家事・育児ができるのかを真剣に考えるようになった。家事・育児を助けてくれる便利な商品も幾つか思い浮かんだ。しかし、買い物に行くとそうやって思い浮かんだ商品が、既に店頭で売られているのには驚いた。みんな同じことに不便さを感じているに違いない。おそらく、こうやって社会が進歩していくのだろうと実感する。

例えば、白湯をつくるのに、いちいち毎回ポットからお湯をとって冷やすのは面倒だし、かといって作って冷ましておけば、冷たくなってしまいうからいい方法はないものかと思っていれば、必要なときにいつでも使えるよう常備しておける適温調整用ポットがあり、ほんの少量の離乳食を毎回毎回作るのも非効率的だと思っていると、離乳食を冷凍しておくための専用パック（しかも離乳食の段階に併せて、

サイズが複数存在）や、炊飯器で大人のご飯と同時におかゆが炊けてしまうおかゆポットがある。はたまた、寝汗をかいた子供の首あたりのみをかえるための寝汗パットやら、おなかが出て冷えないための、腹巻付きパジャマなど、育児製品とはまったく無縁の生活を送っていた私には、その工夫に脱帽である。ベビーカー専用の蚊帳まで売っていた。蚊帳は動かないものという先入観をもっている私には、移動式蚊帳の発想が面白く新鮮である。確かに蚊帳であれば、最近問題視されているディートも使用せず、虫刺されから子供を守ることも可能だ。きっとこれも先輩ママ・パパ達のあったらいいなという考えが製品化したものに違いない。

自分が知らない便利グッズがたくさんありそうだと気づいた私は、既に子育て中の友人の「お祝い何がいい？」の一言に、「使って便利だった育児グッズ」をリクエストしてありがたういただいた。中には、あれやこれや私が思いつかなかったような商品がたくさんあった。

子供が、歩くのが嬉しくてたまらない様子で、所狭しとトコトコ歩いて探検し、ごく普通の紙製の箱などを一生懸命調べている様子を見ると、「子供の心は本当に無垢だなあ」と感慨にひたってしまうことも多い。昔の母親に比べて便利グッズで助けられている分、たくさん相手をしてあげたいと思う。乳幼児を見ていると、人は生まれながらに善人であるという性善説を強く支持したくなる。

# 日々是学習

—株取引・無線LAN・ADR（裁判外紛争解決手続）—



細田 浩一（稲門弁理士クラブ）

## 1. はじめに

この言葉、「日々是決戦」という、大手大学受験予備校〇々〇ゼミナールのキャッチフレーズを自分なりにアレンジしてみたものであるが、そのキャッチフレーズも恐らく何かをもじったかパクったものであろうと思う。中国の故事成語とかであらうか。

語源はともかく、日々の生活の中にも深く掘り下げて『学習』してみるといろいろと面白いことが沢山ある。たいていの場合、他人にしてみればつまらないことだったりするのだが……。

しかし要は、自分にとって面白いかどうかが重要だ。面白いことなら、少しぐらいお金をかけてでも試す価値はあると思う。参考までに、近頃の私の「日々是学習」を箇条書き的に列挙してみる。たぶん何の参考にもならない（^ ^）；

## 2. 株取引のこと

2年ほど前から株取引を始めてみた。近頃よく耳にするネット取引というやつだ。

最初は株主優待目当てに1～2銘柄程度を買って、あわよくば暴騰することを期待しながら、たまに株価チェックをしていただけだった。しかし、そのうち気になる銘柄が増えてきて、どれもこれも明日にでも急騰しそうな錯覚に陥り、ついつい余裕資金に手を付けてしまうのだった。現実はそう甘くないのに……。

そんなこんなで毎日、株価変動に一喜一憂しているのだが、自分の稼いだお金が増えたり減ったりしているのを見ていると、それなりに社会勉強になる。この間のように衆議院解散のニュースが流れば当然に株価に影響するし、企業が不祥事を起こせば株価は下がる。そうかと思えば、理由もわからずに暴騰する株もある。つくづく社会は複雑に絡み合っているのだと思うし、今のように個人投資家が多いと、株主心理について考えるのも面白い。自分の保

有する銘柄がぐんぐん急落して行くのをパソコンで眺めていると、狼狽からついつい売りしてしまうし、逆に急上昇すれば、このまま株価が10倍ぐらいになりそうな錯覚に陥る。そして売り時を逃してしまうのである。株取引は、自分の心理状態をコントロールするトレーニングになるのかもしれない。

もっとも私の場合、大損して「もうおしまいだ…」という気持ちになっても実は数万円の損失、儲かって「人生バラ色～♪」という気持ちになっても実は数万円の利得という程度の投資金額なので、感情の浮き沈みに比べれば現実の損得は大したものではない。近頃、そのような一喜一憂のために消費する時間が勿体無く感じられてきたので、そろそろ全ての株を売り払って楽になりたいと思う。

## 3. 無線LANのこと

「自宅で寝そべりながら情報収集したい！」という怠惰な考えから、無線LANについて調べてみた。なにになに……必要なものは『無線LANアクセスポイント』『無線LANカード』を用意して……ん？『アクセスポイント』と『ルータ』はどう違うんだろ？……SDカード型の無線LANカードが1万円以下で買える時代らしい……無線LANはセキュリティ面に注意しなきゃならない？なるほど確かに、どこかの家のアクセスポイントに接続してしまった。勝手に他人の家に入り込んだみたいで気まずいなあ……近いうちに山手線の内側エリア全域で無線LANが使えるようになるらしい！

とりあえず、便利な世の中が存在していることは確認できたが、寝そべりながら情報収集するのはそれほど快適でないこともわかった。寝そべったら、そのまま眠ってしまうのが一番である。逆に、情報収集したい時には机でパソコンと向き合うのが一番。

#### 4. ADR (Alternative Dispute Resolution=裁判外紛争解決手続) のこと

知財紛争を、訴訟でもなく当事者交渉でもなく、第三者機関の介在のもとで解決しようというのがADRである。私は今年度、ADRの委員会に所属しADRについて学習中である。

ところでこのADR、なかなか知財に適用するのが難しい。何故難しいかといえば、知財の議論が往々にして形式論に終始するからではないかと、私は思う。特許制度が適正に運用されるためには実質論が不可欠なのに、特許の専門家ほど形式論を持ち出してしまいがちである。そうして、「技術者にはさっぱり理解できない特許の世界」を作り上げてしまったのだろう。

このような現状の下で知財のADRを活性化するにはどうしたら良いのか？これは、弁理士を始めとする特許業界の人間が真剣に考えなければならない問題である。それと同時に、知財のADRを確立させることに成功すれば、弁理士に対する国民の信頼は格段に向上するはずだ。「便利士？何それ？」と言われる現状を打破するチャンスである。

さて、このADR。具体的なイメージが思い浮かびにくいという人も多いと思うが、それは当然であって、型にはまったやり方が確立しているわけではない。例えば、ADRの根幹をなす『調停』とは、私の理解では、調停人が当事者間の交渉において触媒的に働いて、合意による紛争解決を実現するというものであるが、どのように振る舞えば合意に漕ぎつけることができるかについて形式的な答えは用意されていない。個々の事件、個々の当事者ごとに、調停人は立ち振る舞いを変えなければならない。そして、強引に自分の意見に従わせようとすることは厳禁である。それが法的・客観的に正しい意見だったとしても、調停人の強引な態度は当事者の反感を買うだけである。

先日、日司連(=日本司法書士会連合会)のADRセミナーに参加してきた。そこで教わったことは、調停は『当事者間の合意』を積み上げることで紛争を解決するものだということだった。わかりやすく言うと、調停人は何かを独断で決めたりはせず、当事者に適切な質問をしていくのである。当事者は調停人の質問に回答しているうちに、いろいろなことを自発的に気付いていく。無理に当事者を説得しよ

うとするのではなく、当事者が自発的に解決策を作り出すのを助けるのが調停人の仕事である。

このような調停の手続が円滑に行えるようになれば、知財ADRは活性化していくはずである。しかし、そのための手段は容易ではない。

我々弁理士は、何か仕事を与えられた時に何を考えるか。恐らく裁判官や審判官の真似をしようとするのではないかと思う。しかし、そんな真似事ばかりしては知財ADR、特に知財調停の未来はない。裁判官は法の適用という枠内でしか紛争を解決することができないが、調停人にはそのような制約はなく、むしろ当事者の納得できる解決方法を発見できれば法律論など無用である。

私見だが、知財調停においては特許無効論や侵害論は脇役である。我々弁理士は、仕事柄すぐにその2本柱を頭に浮かべて口に出してしまうが、知財調停においてはむやみにそれらを口に出してはいけないような気がする。それらの議論について歩み寄れないから紛争となっているのに、歩み寄れない所を無理矢理歩み寄せようというのは所詮無茶な話だ。それよりも、別の観点から紛争解決の方法を模索してみるべきではないか。

例えば、均等論が争点になっている紛争があったとする。調停人たる弁理士は、例の最高裁判例の5要件を形式的に当てはめて、例えば「権利者敗北」という結果を当事者に押し付けてしまうかもしれない。しかし、それでは負けた権利者は反発するし、勝った実施者は勝利という名誉を得るだけで何も得をしない。この場合、例えば実施者が権利者から技術導入するという形を作れば紛争は解決するのかもしれない。これによって権利者には技術供与料という金銭が入り、実施者には将来の設計変更における自由度が与えられるというWin-Winの関係が成立し得る。

要は、紛争当事者は自己の敗北を認めたくないのだ。だから、不本意で50万円の和解金を支払うより、自発的に100万円の技術導入費を支払う方を好む紛争当事者がいるかもしれない。また、和解金より技術導入費の方が社内稟議は通りやすいというメリットもあろう。このような、勝敗を付けない柔軟な解決が普通にできるようになれば、知財ADRは大きく発展していくことだろう。

以上



## 愛知万博記

貝塚亮平（稲門弁理士クラブ）

今年、愛知で21世紀最初の国際博覧会（愛・地球博）が開催された。私も巷の噂を聞き、報道の内容を見て、多分に洩れず興味を持ち、行こうと思っていた。しかし、報道での混雑ぶりを見るとなかなか腰が上がらず8月を迎える。夏休みになると混雑は更に増し、人混みの苦手な私は、行くことなく終わってしまうかと思っていた。

そもそも国際博覧会とはどういう意味合いを持つものなのだろう。調べてみると、国際博覧会が始まった19世紀には、文化や芸術の展覧会の意味合いを持っていたようである。そして、科学技術の進んだ20世紀前半には、展示が文化・芸術から工業製品へと変化し、20世紀後半には科学万能主義を見直すことにテーマが移行してきた。1970年に行われた大阪博のテーマは「人類の進歩と調和」だったようだ。

21世紀の国際博覧会のテーマは、地球環境に優しいライフスタイルの探求、だそうだ。今後の産業の発展の方向性を示しているようで興味はそそられるものの、漠然としていて実感が湧かない。実感を得るためには、実際に行って見る方が良さそうだ。しかし最終月の9月になると、駆け込みの客が増えて混雑が更に増すと予想。これは今行って見るべきだと思い、早速、愛知へ向かうことにした。

あまり時間が無かったので、日帰りツアーを利用した。そのため、当日は朝5時と起きる時間が早かった。途中で話題の「リニモ」にも乗ったが、さほど特別な感想はなく、モノレールとほぼ同じような乗り心地だったと思う。それよりも「リニモ」は万博会場へのメインの交通手段なので、大変な混雑だったことを覚えている。

広い会場に入ると、混雑もそれほど感じられなくなった。まず、グローバル・ループという建物の2階程度の位置で会場内をぐるりと一周している環

状の歩道に上がった。会場全体を見渡してみると、名古屋の中心からやや離れた場所にあるため、緑が非常に多い。しばらく歩いてみると、会場内の建造物には木材が非常に多く用いられていることに気が付く。グローバル・ループの他にも、休憩施設や展示館の多くに木材が用いられている。人が歩く場所もウッドデッキになっているほどだ。

そこで一つ疑問になった。愛知万博は、環境問題、特に循環型社会への配慮がなされた万博とのことだが、これほどまでに木材を多用して資源問題への対策がされていると言えるのか、と。しかし、会場内を歩くうちに、その疑問は消えた。まず、これらの木材には、間伐材が使用されている。そして、この木材を含む様々な建築資材は、会期が終わるとすべてリユースされることになっている。つまり、これらは正に循環型社会を象徴したものだったわけだ。また、各パビリオンの建物は、外形がどれも同じような箱型で、あまり個性が無いが、これも実は、環境への配慮だった。統一した規格で建物を作ること、解体の際に資材のリユースを促進するためらしい。

更に、各所に設けられたゴミ捨て場も印象的だった。ゴミ箱はプラスチック、紙資源など、約十種類も用意され、その脇には何をどの箱に捨てればいいのかを指示するコンパニオンが待機していた。食堂の近くには、通常の箱の他に、焼き鳥の串専用のゴミ箱もあった。循環型社会達成のためには、徹底した分別回収を避けて通れないようだが、会場の外国人スタッフには、過度に厳格な日本人の習慣の象徴であるとの印象を与えてしまう面もあるようだ。

さて、肝心なのは展示館である。報道の通り、人気のある日本企業館はかなりの行列ができています。掲示板を見ると、待ち時間が120～200分とある。こ

れに並んでいてはほとんど何も見ることができない  
 と思い、待ち時間の長い展示館はパスすることに  
 した。目玉の冷凍マンモスを最初に見て、その後は、  
 比較的空いている外国館へ向かった。

当初、国際博覧会というと、最先端の技術や産物  
 などを競って紹介する博覧会だと思っていた。しか  
 し、どうやら各国によって展示のテーマはかなり異  
 なるようだ。技術的なものを展示している国は稀で、  
 多くの国では、その国の民族の生活や、宗教、伝統  
 的な工芸品等の紹介が主だった。

イラン館では、ペルシャ絨毯が展示されており、  
 その精巧さと手触りの良さに驚かされる。ポルトガ  
 ル館では、世界のコルクの60%以上がポルトガルで  
 生産されていることを知らされ、自国の塩田がテー  
 マにされたクロアチア館では、ネクタイ発祥の地で  
 あることを知らされた。各所で工芸品の制作実演も  
 行なわれていた。工芸品は展示されているだけで  
 なく、その多くが販売されている。実際に市場のよ  
 うなスペースで現地の人を相手に値切りながら買う  
 ことができる。様々な国の展示館を順に巡ると、実際  
 に世界の各地を訪れて、その地の市場や町並みを歩  
 いているようで、各国の文化の違いを肌で感じるこ  
 とができる。特に、会場内の外国館は、実際の大  
 陸や地域ごとの区画に分けられて配置されていたた  
 め、各区画を順に見ることで、世界中の様々な地  
 域を一日でぐりと巡ったような気分になった。

海外旅行に行けば、現地の食事をするのも楽し  
 みの一つだが、万博会場でも、各国のレストランや  
 テイクアウトのコーナーがあり、珍しい料理が並ん  
 でいる。店の多くは現地の人販売をしていて、見  
 ているだけでその国の雰囲気が十分に伝わってくる。  
 せっかくなので、昼食はアフリカ郷土料理の店で、  
 アフリカ豆カレーを食べた。変わった味だったが、  
 美味しかった。

さて、民芸品の展示も珍しいが、技術の展示はや  
 はり身近であるが故に興味をそそられる。この点、  
 先端技術の紹介があるロシア館やイギリス館は印象  
 的だった。

ロシア館は、美術工芸品などから先端技術に関す  
 るものまで幅広く展示されていたが、特に最先端技

術である有人宇宙飛行船や水素発電やナノテクノ  
 ロジーなどの紹介にはかなりの力が入られていた。  
 まさに大国ロシアという感じだ。ただ、有人宇宙飛  
 行船の実物模型は、セスナ機程度の大きさだった。  
 これで本当に宇宙飛行ができるのかとやや半信半疑  
 な気分にもなる。また、発電技術やナノテクノロジー  
 関連など、実用化が(?)なものも大々的に紹介されて  
 いた。そんなところも大国ロシアらしい。

イギリス館では、自然界の原理を応用した先端技  
 術を紹介していた。地球の自転による潮の干満を利  
 用した潮力発電、サメの肌を応用した抵抗の少ない  
 水着、蜂の巣構造を応用した建造物、昆虫の原理を  
 用いた超音波による盲人誘導杖などである。こちら  
 も、原理を考えながら見ることができるよう展示に  
 工夫がされていて、時間をかけて見た。参考になる  
 ことも多く、有意義なものだった。

結局、外国館を駆け足で回って一日が終わった。  
 各国には独特の雰囲気があり、館内に漂う香りや、  
 展示の色使い、そして人の表情などが本当に様々だ。  
 そんな外国の雰囲気は大いに楽しめたと思う。派手  
 な演出がありそうな日本企業館などは行けず、地味  
 目な展示が多かったが、各国が展示物を出す国際博  
 覧会なのだから、日本企業の展示を見るよりも外国  
 の展示を見た方が趣旨に合っていて、良かったのか  
 もしれない。

というわけで、愛知万博では、話題性による混雑、  
 環境問題・循環型社会への取り組み、外国の文化や  
 技術を全て堪能することができた。しかしこれらを  
 1日で味わうのは盛りだくさんだったかも知れない。  
 案の定、後日疲れがどっと出た。



ロシア館の宇宙飛行船の前で

# 法科大学院雑感



西村 公芳 (稲門弁理士クラブ)

## はじめに

昨年4月、海のものとも山のものともつかない法科大学院制度が始まり、早稲田大学の法科大学院(正式名称は「早稲田大学大学院法務研究科」だが、早稲田のロースクールということで早稲ローなどと呼ばれることがあるので、以下では「早稲ロー」という。ちなみに、学生は一般に弁理士よりも略語を使う傾向にあるようで、たとえばマンガ喫茶のことを「マン喫」といい、仲間はずれにされることを「ハブされる」という。)に通い始めることになった。法科大学院制度が2年目を迎えた現在、既に全国の法科大学院には1万人以上が在学していることを考えると、弁理士でもそれなりの数の方が法科大学院に通われていると思われ、現に早稲ローの私と同じ学年には10名程度の弁理士が在籍している(もともと、この弁理士率(=弁理士数/学生数)は全国平均よりも上をいっていると思うが)。とすると、法科大学院について語るには私より適任な方が多数いらっしゃるハズであるが、今回偶々機会をいただいたので雑感として紹介させていただく。

## よくある質問(その1)～どのくらい行くの?～

私が「法科大学院に行っている」というようなことをいうと、「へえ～」、「ふう～ん」、「そうなんだあ～」という「何それ?」とか「何しに?」みたいな(ときには「いまさら学校なんて…」みたいな)含みをもったレスを頂戴することがよくあるが、「何年間行くの?」と訊かれることもある。弁理士の方から「何それ?」とか「何しに?」と尋ねられたことはないのですが、それについてはここではパスすることにして、何年間行くかについてであるが、これは法学未修者なら3年、法学既修者なら2年である。

「法学既修者」とは、「法学部を卒業した人」とイ

コールではなく、各大学院が実施する法学既修者用の試験にパスした人のことをいう。各大学院は、大学入試の“センター試験”、“共通一次試験”に相当するような“適性試験”なる全国统一試験が行われた後に独自の入学試験を実施するが、法学既修者用の試験(及び法学未修者用の試験)はこの独自の入学試験として行われる。

多くの法科大学院では、法学既修者用の試験と法学未修者用の試験はそれぞれの定員枠をもちつつ別個の内容で行われている。ところが、早稲ローの場合は少し変わっていて、初めに作文と面接で合格者を決め、その合格者の中から希望する人が法学既修者用の試験を受け、この法学既修者認定試験にパスすれば法学既修者、他の合格者(法学既修者認定試験を受験しなかったか、受験したけれど失敗した合格者)は法学未修者という扱いをしている。つまり、法学未修者といっても必ずしも文字どおり「未修」というわけではなく、私のように法律知識ゼロというのは少数派で、おそらく半数以上は法学部卒業、理工系学部を卒業した人は1割いるかないかといった程度と思われる。

## よくある質問(その2)～どんな人がいるの?～

「よくある質問」とのタイトルを付しておきながら、以降ではさほど訊かれもしない(それだけ一般的に興味をもたれていないのかも…) ことについて言及するが、法科大学院にどのような人たちが集まっているかということ、月並みだが“多様”ということになるのだろう。早稲ローのホームページにおける公式発表によると、私たちの入学年度(2004年度)に関する合格者の概要は

性別	男性：183名	女性：129名
平均年齢	27.0歳(21歳～58歳)	

職業・経歴等 医師、公認会計士、弁理士、薬剤師、国際連合、外国弁護士、民間企業、官公庁、自治体、法律事務所、マスコミ、主婦、主夫、等 その他多数

となっている。2005年度に関する合格者の概要も「職業・経歴等」については似たようなものだが、「性別」で女性の割合が高くなり、「平均年齢」が「25.7歳(21歳～46歳)」となっている。

実感として、早稲ローの1期生についていえば、「よくこれだけ多方面から人が集まったな」という印象はある。社会人経験者だと、かつては地位や責任、あるいは人望や収入が少なからずあったらしき人が結構いる。これは、そのような実績ある人物像を学校側が入試で積極的に評価したからかもしれない。ただ、現実問題として、ある程度の経済的余力がなければ学生生活を自律的に送れないということも事実で、特に30代以上の男性であれば、①かつての収入にかなりの余裕があったか、②ご夫人に信じられない(!)ほどの理解があったか、③いわゆるDINKSか独身に該当するか、のいずれかの条件を満たしていない人はいないような気がする。また、学部を出てすぐ入学してきたという場合には成績に長けている人が多く、そうした人たちの多くが教育環境に恵まれてきたであろうことを考えると、個人的には法科大学院の門戸は多様な、しかし偏った人たちに向けて開かれているという印象を拭えない。

2期生については知人が少ないのでよくわからないところも多いが、「合格者の概要」が示すとおり入学者の低年齢化が進み、社会人経験者が減って学部を卒業したばかりの人が増えている。これは、よくいわれているところでもあるが、かねて入学を考えていた社会人は1期生として入学している可能性が高いことと、徐々に明らかになってきた新司法試験の合格率の低さ(当初は法科大学院修了者の7～8割が合格するといわれていたが、いまでは初年度である来年の試験で5割程度、再来年の試験で3割程度、その後2割程度の合格率といわれている。)にリスクを感じる社会人が増えたことによると思われる(この新司法試験の合格率の低さのせいか法科大学院の受験者数自体も大幅に減り、さらにこの人気の

凋落に伴い雑誌等に掲載される法科大学院関連の記事も減っているように思う)。余談だが、こうした傾向が今後も続くと、もはや法科大学院は社会から多様な人材を集めるのではなく、実質的には学部に関連した大学院となり、その制度設計の理念が実現しないような気がしてならない。学生も含めた現場関係者で、法科大学院制度の将来を危惧する人は少なくない。

ところで、ここまで読んで下さった方の中から「なんか法科大学院は誰もが入れられるわけではなさそうに聞こえるけど、じゃあオマエはセレブなのか？」とのご意見が出るかもしれないので付言させていただくと、私の場合は入学することにつき周囲からの反対がなかったという点で恵まれていたが、急遽入学が決まったこともあってそのための準備をしていたわけでもなく、経済的余裕があったわけではなかった点で恵まれていなかった。いざ学生生活に入ると、貸与奨学金はあるにせよ僅かな蓄えは減る一方で、驚いたことに1年目を終えた時点で当初予定よりも50万円ほど多く学費予算を食い潰していた。学費予算は3年分の学費用として確保していたものだが、つついやり繰りが苦しくなるとその予算に手を出してしまい、その結果1年で予定残高に対してマイナス50万円。これは仕事を辞した身としては深刻な問題で、日弁の会員の先生などからアルバイトを頂戴したりして少しずつ取り繕っているところである。

### よくある質問(その3)～どんなことをやるの?～

ダラダラと書いていたら予定の紙面が尽きてきてしまったので、バランスが悪いがどのような授業があるかにつき簡単に記す。

授業は連日朝から晩までぎっしり詰まっているわけではなく、たとえば週に8コマとか9コマとか、そんな感じである。1コマ90分なので、週4日2コマずつあるとすると、実に週休3日、休みでない日も3時間ずつ出席すればよいということになる。これだけを見ると自由な時間に満ち溢れているようであるが、しかし実際にはその高々3時間ずつのためにやらなければならない(とされる)作業が多く、仕事をしながら通学する、というのは早稲ローの場



合には困難が伴う。

法学未修者については、1年目から2年目にかけて六法や行政法を中心とした科目がカリキュラムの大半を占め、それ以外の専門的な科目については主に3年目に勉強することになっている。法学既修者は法学未修者の2年目のカリキュラムからスタートするというだけで、法学既修者と法学未修者で授業内容に差はない。知的財産系の専門科目として、早稲ローでは「知的財産権法概説」、「工業的創作保護法」、「競業法」、「著作権法」、「国際知的財産権法」、「欧米知的財産権法」、「知的財産紛争処理法」及び「欧米知的財産紛争処理法」が用意されているようであるが、まだ実際に受講したことがないので、その紹介などについてはまたの機会に譲らせていただく。

#### おわりに

早いもので法科大学院での学生生活も1年半を過

ぎ、残すところ半分となった。未だに法律はチンプンカンプンだし、当然ながら明細書や意見書が上手くなっただけでもないし、知的効果はさっぱり得ていない気がする。しかし、新しい世界に入り込み、これまで知らなかったような人たちと接する機会を得たことは、とてもよかったと感じている。

弁理士業務を控えつつ法科大学院に通うことが人生において吉と出るか凶と出るかは、新司法試験に受かるか否かに依存するところも大きいかもしれないが、とりあえずいまのところは吉であるように思う。法科大学院制度に対して思うところがあるのは先述のとおりだが、もし「法科大学院に行ってみようかな…」という方がいらっしゃったら、少しでも背中を押させていただいて、道連れ…、いやいや、研鑽し合える同志が増えれば嬉しい限りである。

以上



## 2 回目の大学生活



藤 沢 昭太郎 (南甲弁理士クラブ)

“やっと前期が終わった。長かった～。”

これが、7月31日PM8:00の私の感想です。去年の11月によく弁理士試験に合格した私は、今年4月から東京理科大学電気工学科の夜間に通っています。弁理士試験に合格し、もう人生において勉強が大変な思いをすることは無いなと思っていたんですが、これが甘かった。理科大は留年率が非常に高く、単位の認定が非常に厳しいとは聞いていましたが、これほど厳しいとは。

まず、入学ガイダンスの先生に、「私のゼミにも弁理士の人がいるけど、いつも死にそうです、って言って、大変そうだよ。まあ、確かに殺人的なスケジュールだからね。」って笑顔で言われました。

授業は週6日で、月～金は18時から21時、土曜は10時半から19時半です。科目は、電気工学科ですので、数学と物理と電気の3つです。物理と数学は電気を理解するために不可欠であるため勉強するわけです。5月頃までは、この講義を全部聴くだけで大変でした。なにしろ数学だけで週に3コマもあるわけで、高校時代、大学は文系に行く決めていた私は、数学や物理の授業なんて爆睡してましたからね。むしろ必要ないから記憶から積極的に消そうとしてました。そんな私が高校で理解していることを前提とした大学の授業なんて、わかるはずがありません。”微分、余弦定理”とか言われても何も思い浮かびませんで、宇宙語のようでした。先生に「分かるね？」とか言われるんですが、笑顔でごまかしてました。

物理の最初の授業で片対数と両対数の方眼紙にグラフを書くという授業があったんですが、方眼紙の目盛りが均一ではない点が理解できず、アシスタントの大学院生に質問したら、「対数だから」って言われてまして、「対数ってなんすか？」って聞きますと

「Logだよ、Log」って言われました。しょうがないので別の大学院生に「Logって何すか？」って聞きますと、「対数だよ」言われました。いやあ、全然進みません。しょうがないので「ぶっちゃけ具体的にどのようにグラフ書けばいいんですかね？黒板に書かれた数値を縦軸にとるんですかね？」と理解を諦めて、作業に徹して切り抜けました。

5月のゴールデンウィークを過ぎ、授業が本格的に始まりました。その中に実験の授業が2つあります。物理学実験と電気工学実験で、1週間おきにあります。この実験の日は大変です。実験は、3人一組のグループになって、器具を揃え、実験装置を組み立てて、実験を行い、測定結果をノートに記入するという流れです。何の問題もなく実験が成功し、スムーズに理想的な値が得られればいいのですが、なかなか理想的な値が得られず何度も実験を繰り返すこともしばしばあります。そうやって来ると大変です。眠くてコンタクトが曇ってきたりして、それでも必死に、例えば巻尺の数値を読むわけです。何しろ、読み間違えるとまた理想的な値は得られなくなり、いつまでも終わらず帰れなくなります。まあ大体、実験開始から2時間過ぎた20時ごろ、疲れてきます。そうすると私の実験パートナーの現役学生の彼らは、「もう無理っすよ、あきらめましょう。」と実験を放棄します。または椅子に座りこんでしまいます。私は「終わんなきゃ帰れねえんだよ。」と心の中で彼らを罵倒しながら、彼らよりも10歳ぐらい年上の29歳の私は、大人ですので、何とか彼らを励まして実験を終わらせます。

そんな私でも1度だけ実験が最後まで終わらなかった回があります。それは、電気回路を製作するという回で、コンデンサー等の素子を基盤に半田付けして製作するんですが、私はぶきっちゃなので、

半田を多く付け過ぎて、半田しちゃいけないところまでくっついちゃいまして回路がぐちゃぐちゃになってしまいました。あのときは自分が理系に向いてないんじゃないかと思って少しへこみました。だって先に製作した人を見せてもらったら、ものすごくきれいに半田が付いてて、職人技のようでしたからね。

実験が終わったら実験報告書のレポートを書く必要があります。これが大変なんですよ。レポートは月曜日の18時までが期限なので、その前の日曜日までに書き上げる必要があります。テーマによってはグラフを何枚も書かなければならない場合もあり、ちょっと日曜日にのんびりすると、月曜日の朝までかかることがあります。そんなときはそのまま仕事に行くんですが、結構テンションが高いままで、眠くなんなかつたりして、自分の体力にびっくりしたりします。

そんなこんなで、7月の前期試験が近づいてきました。問題は電気数学でした。この科目は、複素数の微分や積分に関するもので、普通の微分や積分さえよく分かっていない私にとって、さらに複素数の微分や積分なんて、授業を必死に聞いていても、ほとんど理解できませんでした。先生に質問してみましたが、先生の説明の意味さえよく分かりませんでした。でもこの科目は必須科目なので単位を取らないと卒業できません。幸運にも先生は、最後の授業で試験に出す箇所を教えてくださいました。たぶん一緒に入学した編入生の仲間で、女性弁理士の中村ちゃんがいつもその授業の最前列の席で困った顔をしていたから、先生もかわいそうに思って、教えてくださいました。

たんだと思います。

でも困ったことに、出る箇所は分かっても解き方が分かりません。先生は、「積分は留数定理を使えば簡単」とおっしゃっていましたが、教科書の留数定理の箇所を読んでも、定理で用いられている記号の意味が分からないというかなりやばいレベルでした。

切羽詰った私は、最後の授業で近くにいた現役の学生達に「僕、社会人編入でよく分かんないだよ、この問題どうやればいいのかな。」と聞いてみました。そしたら「いやあ、そりゃわけわかんないですよ。ここはですね。」と細かく教えてくれまして、その後連絡先を交換したりして、3日間ぐらい、授業終わった後に更に教えてくれました。みんな理科大生って親切なんですよ、いつもびっくりします。おかげでこの電気数学は単位が取れそうです。

私の大学生活は、このように非常にスケジュール的に、また勉強的にかなりハードです。でも、この電気の勉強自体が非常に面白いですし、今後、仕事に非常に役に立つでしょう。というより不可欠な知識かもしれません。また、私には同じに編入した仲間が10人程います。ほとんどが同じ弁理士で、みんな私のように去年合格したか、一昨年合格した人たちです。この仲間で必死になって、みんな教えあってやっています。また上級生には、弁理士の先輩もおりまして、その人達に過去問や先生の情報を頂いております。また勤務している事務所も私が理科大に行くことに関し非常に協力的です。こうした環境的には恵まれた状況の中で、何とか無事に理科大を卒業したいと考えております。



## 映画について

千 且 和 也 (南甲弁理士クラブ)

1. 映画について、書いてみたいと思う。以下、何も資料を見ずに記憶だけを頼りに書くので、誤りなどがあるかもしれないがお許しを。さて、最近は、余り観なくなったが、以前は、毎週1本は、レンタルビデオで古い映画を観ていた。幼稚園から高校まで一緒だった映画おたくの幼馴染の影響でいわゆる名画といわれる古い映画を頻繁に観た。現在、映画館でやっている映画の中にも、面白いと思うものもあるが、二度観たいと思う映画は、皆無に等しい。昔の映画だと二回でも三回でも十回でも観たいという映画がある。

2. 古い映画で好きなのは、ビリーワイルダー監督の映画とヒッチコック監督の映画である。ビリーワイルダーという名前を知らない人も、多いかもしれないが、有名な映画としては、ヘップバーンの「麗しのサブリナ」やモンローの「お熱いのが好き」などがある。ビリーワイルダーの映画でお勧めしたいのが、「情婦」という映画である。この映画タイトルとは、想像がつかない裁判を舞台とした映画である。原作は、アガサクリスティの「検察側の証人」である。どんでん返しのどんでん返し、さらにまた…と結末は、驚くものである。内容も面白いが、イギリスの裁判風景を再現しているところが非常に面白い。特に、裁判の終わりの方で被告代理人が新しい証拠を提出しようとする、検察官が異議を唱えるが、弁護士が過去のリーディングケースを引いて反論するなど中々面白い。ビリーワイルダーの映画は、空間というものを上手く利用しているところか解説されていた。先ほどの「情婦」は、裁判所であり、アカデミー作品賞をとった「アパートの鍵貸します」は、アパート、ヘップバーンの「昼下がりの情事」は、ホテルの一室など、一つの空間を舞台に話が展

開されるのである。他にビリーワイルダーの映画で好きなのは、映画の裏舞台を描いた「サンセット通り」、初の大西洋横断を描いた「おおあれが巴里の灯火よ？」などいろいろとあるので、是非、一つは観てみて下さい。

次に、ヒッチコックであるが、こちらは、有名で、「鳥」や「サイコ」などが特に有名でしょう。個人的には、「鳥」は、何だか意味が分からず好きではないかな？ヒッチコックの映画は、サスペンスの内容もとても面白いのだが、主演女優として美女を使っているのも、観ていて面白い。やはり、美女がいる映画は、楽しい。アカデミー賞を沢山取った「タイタニック」を好きになれない原因の一つが主演女優が……。話は、戻して、ヒッチコックの美女好きのことだが、有名なのがグレースケリーでしょう！元モナコ王妃である。「ダイヤルMを廻せ」がお勧めだな。あと、イングリットバーグマンが出ているものも良いかな？タイトルは、確か「汚名」と「白い恐怖」かな？あと、ヒッチコックの映画でお勧めなのは、「知りすぎている男」。この映画でお母さんが歌っていた歌がCMで流れているのには、びっくりした。他に心理的に怖かったのが「レベッカ」。サンフランシスコを不気味な感じにさせる「めまい」。最後にマウントラシュモアで戦う「北北西に進路を取れ」などがお勧め。是非、一度ご覧下さい。

3. あと、好きな映画として、「現実破滅型映画」が好きである。この「現実破滅型映画」とは、今、私が勝手に作った分類である。どのような映画かというと、最初は、楽しい日々を過ごしているが、途中から色々状況が変わってきて、その楽しい日々を過ごせなくなっていき、破滅していくという内容のものである。そのタイプで一番好きなのは、「俺たち



に明日はない」(ボニー&クライド)である。ウォーレンビューティーとフェイダナウェイの主演が勤める映画である。銀行強盗を繰り返して、逃げ回って、怪我をして休んで、静かに暮らしていたところ、何百発と撃たれて死んでしまうという話。この映画が、実話というのには、驚き。FBI がボニーとクライドを撃つ際の実際のフィルムを以前観たことがあった。衝撃的であった。この映画には、無駄がないと何処かに書いてあった。二人の主演の他の脇役、だれ1人欠けても駄目だとか。一番好きなシーンは、ボニーがクライドにもし強盗を始める前に戻れるとしたらどうすると問うと、クライドがまた銀行強盗をやるというシーンが良いかな。勝手に思い出してしまった。ウォーレンビューティーの映画の中では、「天国から来たチャンピオン」という映画も、面白い。笑えて、泣けるというエンターティメント性が盛り沢山の映画である。スーパーボールに出られるアメフト選手が事故でなくなってしまうが、それは、神様が間違えて殺してしまったもので、天国から違う体に戻って行くというコメディタッチだけど、ちょっと泣ける映画。

話は、「現実破滅型映画」として、好きなのは、「仁義なき戦い」である。菅原文太、松方弘樹が主演の映画。やくざ映画だけど、青春映画。深作監督が死んだ先日、DVD を買ってしまった。疲れた夜にボーっと良く観た。松方弘樹が殺される前に菅原文太とタクシーに乗って「何でこんな風になってしまったのかのお」と言っているシーンが最高。血が出すぎるが、とっても青春チックな映画である。他にも、「ディアハンター」、「ワンスアポンアタイムインアメリカ」、「アンタッチャブル」などがこれに当たるかな？あれ、マフィア映画が多いな。

なお、「現実破滅型映画」の駄作は、「明日に向かって撃て」である。ポールニューマンとロバートレッドフォードという名作「スティング」と同じ主演で、同じ監督の映画であるにも拘らず、とてもつまらなかったの、観ないように。

4. 最後に、日本映画。映画＝洋画という認識が強いようで。最近では、セカチューや「踊る大捜査線」など日本映画でもヒット映画は、多いがどうしても洋画に押され気味である。そんな中、個人的に好きな映画をあげてみたい。

まず、日本映画として、最初にあがるのは、当然、黒澤映画。「七人の侍」を始め、「用心棒」、「天国と地獄」など数多くの名画がある。黒澤映画は、非常にエンターティメント性に富んでいると思う。観ていて楽しく、また観たくなる映画である。特に、「用心棒」とその続編である「椿三十郎」がお勧め。三船敏郎と仲代達也の決闘シーンは、最高。

日本映画だと、岩井俊二監督の映画も面白いかな。中山美穂が主演の「ラブレター」が良いね。何か清々しく、自分の高校生活を勝手に美化しながら観てしまう。あと、岩井俊二だと「スワロウテイル」もお勧め。

また、個人的だけど薬師丸ひろ子の「Wの悲劇」も面白かった。薬師丸ひろ子がブスの役を演技しているところがなかなか良かった。

日本映画だと、宮崎アニメが有名だけど、何が良いのか全く理解できない。本当に皆良いと思っているか？むかしの宮崎アニメは、よかったのに残念。ルパン三世のカリロストロの城なんか宮崎アニメの最高傑作だね。

5. 字数が余ったので、先日、観に行ったスターウォーズのエピソード3について。個人的には、感動したというか、内容の筋が通ってすっきりした。スターウォーズを最初に観たのは、小学校5年生の頃かな？何でルークが反政府軍？なんて思って観ていたのが懐かしい。最後にダースペーダーが誕生したシーンは、感動したね。エピソード3のDVDが出たら、通して全部観ようっと。

以上

## 紅茶の話

今井 貴子 (南甲弁理士クラブ)

試験に受かったらあれをやろう、これをやろうとあれこれ思っておりましたが、そのほとんどについて着手できず現在に至っております。大したことはしていないのですが、それなりに忙しいのです。もちろん、私よりもご多忙な先生は大勢いらっしゃり、私ごときの忙しさなど問題にもならないかも知れませんが、個人的には、忙しく疲れやすくなってきました。これも年齢のせいかと思いつつ、短い時間で心休まるものはないかとあれこれ試してみました。今日はその中の一つとして「紅茶」による癒しの話を致します。

昨今は、様々な種類のお茶を購入できるようになり、中国茶等の専門店も出て参りました。私の友人も、何年か前から紅茶専門店なるものを営んでおり、その影響もあり、様々な種類の紅茶を飲むようになりました。ただ、私はいわゆる通ではないので、紅茶の種類には詳しくありません。いつもその日の気分を友人にいい、それに合ったものをブレンドしてもらっています。

### ねむり姫

ブレンドした紅茶で、今、一番気に入っているのは、「ねむり姫」と命名された紅茶です(友人の店での商品名です)。パッションフルーツ、ローズ、そしてラベンダーをブレンドした紅茶です。パッションフルーツのフルーティーな香りの中に、バラの甘い香りがほのかに感じられ、ラベンダーのやさしい香りで癒されるといった感じです。味を楽しむことはもちろんのこと、香りも楽しむことができます。特に、ラベンダーは疲れている時にブレンドするととても良いです。友人曰く、なかなか眠りにつかなかったお客様が、ラベンダーをブレンドしたものを飲んで

で寝つきが良くなったそうです。私の場合は、疲れているのですぐに眠れますが、ラベンダーの香りは心地良い眠りに誘ってくれますので、翌朝の目覚めが良いです。また、眠る際だけでなく、仕事に追われている時とか、起案の期限が迫っている時などにも、「ねむり姫」を飲んでおります。因みに、この原稿を書いている今も、飲んでおります(夏休みの宿題を一夜漬けて処理しなければならないように、切羽詰まっているのです)。一種の逃避かもしれませんが、精神的に追い詰められていたものを、気分的に和らげてくれます。「ねむり姫」という名ではありますが、工作中にもおすすめですので、皆様、お試しになると良いでしょう。パッションフルーツとか、ローズのお茶がない時は、身近なところで、アールグレイにラベンダーをブレンドしても良いと思います。アールグレイの品の良い香りとラベンダーがマッチして、心落ち着きます。また、ブレンドしたものではなく、ラベンダー単品でもおすすめします。私も、お茶用のラベンダーを(ラベンダーの花びらです)何グラムか購入しました。ただ、貧乏性もあり、ラベンダー単品をお茶にして飲むのがもったいなく、香りのみを楽しんでおります。いつか勇気を出して、ラベンダーティーを家で飲みたいものです。

なお、ペットにうさぎを飼っておりまして、うさぎは寂しがるとストレスがたまるらしいので、ストレスがたまらないように、うさぎにもラベンダーの香りを楽しませています(うさぎのそばに、ラベンダーのお茶葉(花びらです)を置いて香りを楽しませているのです。ラベンダーティーを飲ませている訳ではありません)。

### キャラメルミルクティー

紅茶といえば、ストレートで飲む場合と、ミルクティーとして飲む場合とがありますが、ミルクティーといえば、キャラメルミルクティーをおすすめします。紅茶なのに、あのお菓子のキャラメルの味がし、甘い香りがします。また、甘いといっても、しつこい甘さではなく品の良い甘さなので、男の方でもおいしく飲めると思います。疲れている時は、甘いものをとると良いと言いますが、チョコレートばかり食べてしまうと太りますので、キャラメルミルクティーはダイエットをしている方にも良いでしょう。疲れて甘いものがほしい時に、お試しあれ。

### メープルとストロベリー

特に友人の店で命名されていませんが、メープルとストロベリーのブレンドティーもミルクに合います。甘酸っぱい香りに心地良く刺激され、気分的に頭が活発になってきます。いや、実際に活発になっているのかもしれませんが。

以前見た番組で、香りを楽しむことは脳に刺激を与え、若さを維持するのに良いと紹介されておりました。疲れを和らげ、かつ、若さの維持に役立つのであれば、香りの良いお茶を楽しむことはまさに一石二鳥です。手軽に簡単にできるのでおすすめです。

### その他のおすすめ

暑い夏には、すっきりしたものが欲しくなります

よね。そんな時におすすめするのが、ジャスミンとグレープフルーツのアイスティーです。ジャスミンの香りにグレープフルーツの酸っぱさがマッチして、いかにも爽やかな香りを楽しむことができ、疲れを癒してくれます。グレープフルーツハイを好まれる先生を多数存じておりますが、たまには、紅茶でグレープフルーツを楽しまれてはいかがでしょうか。

また、友人によると、先ほど紹介しましたキャラメルティーにオレンジをブレンドしてストレートで飲むと、心が落ち着くそうです。これは、ホットでもアイスでも合うので、一年中楽しめそうです。あの甘いイメージのキャラメルと柑橘系のオレンジという組み合わせで意外だなと思いましたが、いつも同じ香りばかりを楽しんでいますと、香りに慣れすぎて脳に刺激が行かないかもしれません。新しい香りと心地良い刺激を求めて、今度試してみたいと思います。

因みに、私の友人の店は、小田急線の祖師ヶ谷大蔵駅のそばにある「ティーベル」という店です。紅茶のことがわからなくても、こんな感じのが欲しいといえば、すぐにブレンドしてくれます。また、好みのお茶も販売してくれます。祖師谷に行かれたら、是非ともお立ちより下さい。きっと、疲れを癒してくれるお茶に巡り会えることでしょう。

以上



## タイ海物語

宮 永 栄 (南甲弁理士クラブ)

津波といえば日本。日本は津波と古くから付き合っていたようですが、実際その威力を知っている人は多くないと思います。2004. 12. 26にインドネシア沖で地震があつて、私はその威力を知りました。テレビで見るその破壊力には背筋が凍るほど圧倒されました。そして、ニュースで重大な被災地としてカオラック (Khao lak) が紹介されたときはショックでした。

2003年の年末、ちょうど津波の一年前、我々家族はタイのカオラックにいました。カオラックはタイのプーケット島から北へ約80km 離れたところにあるリゾート地で、海には数えられるほどの人しかいない程静かな場所です。のほほ〜んとした雰囲気、周りには何にもありません。静かにアジアを感じたい人にはうってつけの場所です。

ホテルの従業員の話によると、客の殆どはリピーターだそうです。あそこに座っている人は、どこぞのだれべえでうん年前から毎年この時期 (年末) にくるといふ小話をいろいろ聞かされました。さすがホテルマンは記憶力が良いと思ったら、ホテルの従業員の殆どはシーズンによって地方から出稼ぎに来ている人で、その人は冬のみ働きに出てくる人だったからです。知識は冬季限定ということで、納得。

従業員の優しさに加えてホテル (バンガロー) 施設も最高にアジアンテイスト。年末の行事は民族舞踊に生バンド、そしてオカマちゃんが混じったダンスショー。外人オカマちゃんたちとの年越しには嫁も子供も大満足。思いっきりタイを感じて我が家もリピーターになる決意を固めました。タイがしっくりきた理由はおそらく他にもあると思われ、私の顔がタイ人に近いことでタイ人からも親近感を抱いてもらえたからか。

2004年の年末にカオラックへ行く予定をぎりぎりまで考えていましたが、いろいろな事情から行くの

は取り止めました。そして聞いた悲報。今年も来ているかもしれないあの人たちはどうなったんだろう。プールで遊んだスウェーデンの女の子とその家族達、5年連続で来ているロンリーガイ、私と同じサッカーユニフォームを着ていてレストランでお互い気まずかったオランダ人達、日本が好きと言っていたマッサージ師、それにホテルの従業員やオカマちゃん達は無事だろうか。

ネットで何日かホテルの情報を追っていたら「経営者は無事だ。別の場所にいたから。」という情報がありました。さすが経営者こうでなくっちゃ。ホテルはこれを書いている時点で “severely damaged closed until further notice.” となっております。“destroyed” という文字が並んでいる中では不幸中の幸いなのでしょうか。それとも経営者の底力なのでしょうね。早い復興を願っております。

タイについては特別な思いを抱いております、2005年の夏、家族でタイに行きました。目的地はバンコクとサムイ島です。サムイ島はプーケット島とは別異なる位置にあるので、津波の影響は全く受けていないのです。第2のカオラックを探しに魚群の元へ。子供は勿論ムシ探し。

ここで真面目な話ですが、タイではタイ米ブランドの保護が関心事になっているようです。タイ米の種を持ち出して勝手に作ったり、タイ米じゃないのにタイ米と称したり。そこで欧州特許庁や米国特許商標庁、そして日本特許庁と連携して外国で権利を取得するように働きかけているのです。タイにはタイの偽物対策があるのですね。人々に権利意識を持たせることが重要だと特許庁の方はおっしゃっていました。その特許庁のお偉いさん (かなり偉いらしい)、妻の目撃談によると、ホテルのプールサイドで寝そべりながら煙草を吸って、携帯電話で電話しま

くっていたとのこと。人間味があつていいですよ。こういうタイプの人は好きです。

そんなこんなで、ミッション終えてサムイへGO。いや〜最高でした。海辺のバンガローに、海と山。仕事を忘れるに絶好のロケーション。サムイ島は特にヨーロッパの人から人気があつて、どこもかしこもヨーロッパ人だらけでした。従業員に聞くと、シーズンによって特徴があるらしく、アジア人もシーズンによって来ているようですが、ヨーロッパ人には根強い人気があるそうで、特に最近イタリア人がよく来ているそうです。それ以外には、スウェーデン、オランダが多いとか。レストランで彼らと隣になるとアジア人である私たちに興味を示してきます。こういうときにアジア人であることを認識しますね。本当はあなた達がアジアのど真ん中の小さな島にこんなに大勢いることの方が不思議なんです。でもハワイでは人のことが言えませんし、ま、お互い様ということで。観光地というのは世界中から来る場所もありますが、偏っていることも多く、サムイ島はたまたまそういう人達だったのでしょ。

ここからが本題なのですが、呑気に過ごしていたところ、以前カオラックで会った人らしき人をホテルで見かけました。私はそうだといいましたが妻は否定しました。おそらくそれは「まさか」があつてそういつたと思います。実はタイに来る前津波の心配をしていたのです。出発前にインドネシア沖で大きな地震があつたし。それでそれが頭から離れず、カオラックのことをちよくちよく考えながら過ごしていたのです。よっぽど話しかけようかと思いましたが、あまりの突然でできませんでした。私が以前あつた人だと思った理由は容姿がそっくりだからだけではなく、彼の家族構成もそう思わせる要因でした。共に食事をしている3人の子供は全てアジア人（多分タイ人）でした。それで重なってしまったのです。その想像が正しいにしろ間違いにしろ、何らかの理由で里親になっているのです。以前ネットで、津波で親を失った子供の里親を求めている広告を見たことがあります。あの方はきっといろいろなことを見て経験してきたんだと思います。外国の人を家族に迎え入れることはそうそうできません。言葉や習慣、価値観等違うものだらけです。

他の国の人が育ててそれが子供の幸せなのかと考えると躊躇してしまいます。この家族はそうせざるを得ない深い事情があるので、それはいったい何かと考えると私の経験したことの無い何かであることは疑う余地はありません。本当に勇気のある行動だと思います。

タイでマクロとミクロの「協力」というものを見ってきました。国際協力という言葉は聞こえがよいですが、いろいろな利権が絡んでいるのが実情です。他方、個人が行う協力はそれとは違って、実はすごく効果と即効性があると感じました。募金や義捐金は素晴らしい行動です。しかしそれだけではなく、観光することも協力の一つなのです。現地はいまこれをむしろ必要としています。観光で生計を得ている地域ではそれが産業です。旅行しに行くのがやはりいいのです。被災地だからって見捨てず、そういう目で見ないで歩くことが大切です。現地の人はいつまでも下を向いていませんし、それで復活してくれたら本望ですよ。



(Before)



(After)



## 「米国法基礎」夏期集中講義に携わって



宮城 三次 (PA会)

### 1. はじめに

去る4月、東京理科大学に専門職大学院が開設され、知的財産戦略専攻コースが設置されました。この専攻コースでは、知財分野で戦略的な思考のできる人材を養成すべく、知財関係の法律科目、内外での特許戦略をケーススタディする科目など、さまざまな科目が設けられていますが、コースの特色の一つとして、「米国法基礎」という科目があります。この科目は、米国のロースクールでの授業となるべく近似の環境の下に、米国での知財活動に欠かすことができない法律知識の一端を英語で伝授しようとするものです。このたび縁あってこの科目の講義進行をお手伝いする機会を得ましたので、以下講義風景なども交えて簡単にご紹介したいと思います。なお、東京理科大学においてこの科目を設置するに当たっては、同大学科学技術交流センターの平塚三好氏が多大な尽力をされましたことを申し上げます。

### 2. 「米国法基礎」という科目

米国での知財活動に欠かせない法律知識と一口にいっても、特許法や商標法は言うに及ばず、憲法、民事訴訟法、契約関係法、そして法体系の基盤をなす慣習法の考え方や、歴大な質量があるわけで、これを一週間、正確には一コマ90分×12回を一日2コマずつの6日間ととにかくその背骨だけでもなぞってみようということですから、およそ無謀といってもよい試みかも知れません。それを実現することができたのは、先出の平塚氏とわたしとの共通の恩師であるフランクリン・ピアス・ロー・センター (Franklin Pierce Law Center、米国ニューハンプシャー州コンコード、以下「FPLC」と言います。)、ウィリアム・O.ヘネシー教授の存在に負うところが大きいのです。

### 3. ウィリアム O.ヘネシー (William O. Hennessey) 教授

ヘネシー教授は、米国東海岸で比較的小規模な法

律事務所を経営する特許弁護士であると同時に、20年以上にわたって FPLC の知的財産権修士プログラム (以下「MIP」と言います。) 主任教授を勤めておられます。ご存知の方も多いと思いますが、MIP は1年間で米国の特許、商標制度など、知的財産権に関する基礎知識を習得するプログラムで、アジア、中南米をはじめとする諸外国からの留学生が多いことが一つの特徴です。平塚氏とわたしは時期こそ違いますが、ともにこの MIP プログラムを修了した者であり、ヘネシー教授には大いにお世話になりました。ヘネシー教授はその当時商標法の講義を担当していましたが、判例の読み込みに終始してやる気の萎えがちなわれわれ留学生組にもわかりやすく、情熱のこもった授業の進行ぶりは水際立ったものがあり、まさに「米国法基礎」の講師としてはうってつけだったのです。

### 4. 開講準備

7月31日の開講に向けて具体的な準備を始めたのは、2月終わりくらいのことでした。平塚氏とヘネシー教授との間でおおまかな下打ち合わせはなされた状態でしたので、実際に授業をどのような形式で進めていくかといったところから計画し始めました。米国のロースクールでの環境にできるだけ近づけるために、ヘネシー教授の講義はすべて英語で行うこととし、受講生の理解を手助けするために、毎回の講義の冒頭10分程度でその時間の講義の概要を日本語で解説することとしました。講義に使用するマテリアルはヘネシー教授が6月頃までに用意して受講生にリーディングアサインメントとして事前に渡ししておく段取りです。

6月中旬ごろ、その教材がヘネシー教授のところから電子メールで送られてきました。全体としては種々の論文、判例、教科書の記載のコンピレーションでしたが、印刷してみると100ページを超える英文マテリアルは分厚く、開講初年度にこの科目を勇気

を持って選択された受講生諸氏にとってさえ、プリントアウトを目にしたときには後悔された方もあったのでは、と思われます。ヘネシー教授自身はこのマテリアルの発送を終えてすぐに中国、バングラデシュ、スリランカを巡るビジネス旅行に出発し、その最後の予定地が日本であり、「米国法基礎」の講義を終えた後に帰国されるという、教授にとっては夏場のハードスケジュールとなりました。なんとか無事にティーチングアシスタント（TA）の役割を果たすために時間を見つけて資料を読んだり、細部の打ち合わせをメールでしたりしているうちに時間は流れ、開講の日はやってきました。

## 5. 開講

開講日は土曜日で、わたしはヘネシー教授が滞っている東京神楽坂近くのホテルへ、緩やかな坂を上っていきました。セミが盛んに鳴く蒸し暑い午後1時頃でありました。ホテルのロビーに入ると、すでに平塚氏とヘネシー教授が歓談しており、さっそくそこへ割り込んで昨年秋以来の再会の挨拶をしました。

講義は飯田橋駅に隣接するビルの中にある大学院の飯田橋キャンパスで行われます。時間は午後6時半から10分の休憩を入れて午後9時40分まで1日2コマ、日曜日の休みを挟んで翌週金曜日まで続きます。教える方も、教わる方も、非常なスタミナが必要です。特に英語での講義になれていない受講生諸氏にとっては、板書を書き取りながら聴覚でどんどん理解していかなければならない、連続した緊張を強いられる場面となって相当苦労されたようです。講義の開始までの間を利用して、最終的な授業の進行に関する打ち合わせをします。「これまで確認してきたように、まずわたしが学生の理解を助けるために、5分か10分程度でヘネシー教授が取り扱うであろうトピックを説明します。ですから、その後に英語で講義を始めてください。」「資料は読んだ？」「はい、詳細にというわけではありませんが、全体を1回読みました。」「けっこう。じゃあまあ、今日はぼくがするままに、どうなるか、とりあえず見てよ。」

どうもヘネシー教授には授業の進行について腹案が出来上がっているようでした。早くも事前の話とは違う展開になりそうで心配になりながらも、とり

あえずその日はなれない解説をせざるにすむことになりました。

## 6. 教室にて

キャンパスの中教室には、10人ほどの受講生が集まりました。本年度は開学初年度で1年生しかいないためもあり、それほど数は多くありません。6時30分。ヘネシー教授は人を安心させるようなスマイルを浮かべて教壇に立ちます。「みなさんこんにちは。わたしがこの講義を担当するヘネシーです。ビル、と呼んでくれてかまいません。みなさんはここで学んだ知識を生かして将来知的財産権と深く関わっていくこととなります。法律は、特に慣習法の世界では、過去の事例を分析することが重要です。（ここでヘネシー教授、幅広い白板の左端まで行って PAST と書く。）しかし、発明を扱う特許などの知的財産権は、未来を開く技術を取り扱う法律分野です。そこがすばらしいのです。（今度はヘネシー教授、白板の右端まで行って FUTURE と大書。）英語の講義を理解するのは難しいと思います。しかし、できるだけわかりやすく話します。この講義が終わったときに、わたしが話した内容をあなたがたすべてが理解しているでしょう。請合います。」

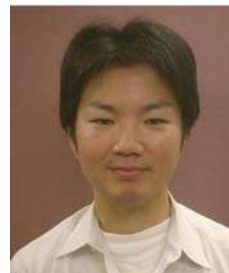
それはもはやエンターテインメントの領域でした。毎回冒頭に行く予定であった日本語での予備解説はその日だけでなく、講義全体を通してやらないことにしました。わたしの役割は講義に参加し、受講生に代わって質問をしたり、短い補足の解説をしたりするTA本来のものとなりました。受講生からも気分がほぐれるとさまざまな質問が出るようになり、ヘネシー教授の熱のこもった講義とあいまって、アメリカンロースクールライブは最終日まで大いに盛り上がり、受講生諸氏ばかりでなく、なによりわたし自身がそれから大きな感銘を受けることになりました。

## 7. 終わりに

ヘネシー教授が請合ったことは、最終テストの結果で証明されました。受講生の多くが非常に優秀な成績を収めたからです。来年もこのすばらしい講義をあらたな受講生諸氏と体験する機会が得られることを願って結びといたします。

（終わり）

## 自転車通勤がしたい！



鈴木 大介 (PA会)

筆者は今年の5月に突如、自転車通勤に目覚め、これを書いている8月末まで、少しずつ自転車通勤実現の努力をしてきました。そこで本文では、筆者が実現を目指している自転車通勤の魅力や自転車購入の留意点などについて述べます。失敗談もありますので、自転車通勤に興味のある方の参考になれば幸いです。

### きっかけは疋田智さんのホームページ

<http://japgun.hp.infoseek.co.jp/welcome.html>

このサイトを見ていただければ、私の駄文を読むより何倍も効果的に自転車通勤の魅力が分かります。疋田さんはTBSのディレクターで、自転車通勤に関する著書をいくつか物しています。交通費ゼロで経済的、満員電車に乗らなくてよい、環境にやさしい、ダイエットにもなるなど、疋田さんが語る自転車通勤は、私にとってたいへん魅力的でした。

というわけで、高校のとき以来ほとんど乗っていなかった自転車で通勤することを決意しました。私の現在の居住地は東京都日野市、職場は東京都港区虎ノ門です。以下のサイトで調べてみると、居住地から職場までの道路距離は41kmでした。

<http://www.mapfan.com/routemap/index.html>

疋田さんによれば、自転車通勤ができる距離は20kmぐらいまで、ということですから、現在の居住地から自転車通勤することは無理です。引越しが必要です。

### 自転車を通販で買うな！

引越しはおいそれとはできないので後回しにし、とりあえず自転車を買うことにしました。自転車は通信販売で買ってはいけません。通販で自転車を買って失敗した私が言うのだから間違いありません。

最初、クロスバイクというタイプの自転車を通販で買いました。格好いい自転車が嬉しく、硬いサドルを柔らかいものに交換すれば乗り心地も良くなる、と思って交換しようとしたのです。

ところが……サドルを外して、サドルを支えていたシートポストという棒状の部分の根元のネジを緩めたとたん、シートポストが自転車のフレームの中にストンと落ちてしまい、逆さにしても出てこなくなってしまうました。そもそも落ちるような構造になっているのは不良品じゃないか、不良品とまでは言えなくても、一旦落ちたシートポストが出てこなくなるなんて完全に想定外の話だから俺に非はない、と通販の担当者に文句を言ってみました。相手は「サドルを先に外すという手順が良くなかったのだ」の一点張りで、とりつくしまがありませんでした。保証書など、あっても意味がありません。通販業者が保証しないと言う以上、こちらにはどうすることもできないのです。訴訟など起こすのもばかばかしいし。大して高価とは言えない自転車でしたが、2～3回しか乗っていないのに廃品になってしまいました。今でも悔しくて仕方ありません。これが街の自転車屋で買ったなら相手の顔も見え、ちゃんと対応してくれたでしょうし、自転車を復旧するための方法もアドバイスしてくれたに違いありません。通販はダメです。自転車購入後にメンテナンスその他の相談をすることすらできません。

というわけで、自転車は、絶対に、通販で買ってはいけません。とくに私のような自転車初心者は避けるべきです。街の自転車屋さんへ行きましょう。

### ワイズバイクアカデミー

<http://www.jitensya.co.jp/yba.html>

なぜこの自転車屋にしたかと言うと、職場に近い

ため、これからどこへ引越そうとも、行きつけの自転車屋にすることができるからです。お勧めですよ。店員さんは親切で、私のような素人の質問にも丁寧に対応してくれます。お客さんには外国人も目立ちます。

当初、マウンテンバイクとロードバイクの中間の、クロスバイクというタイプの自転車の購入を考えていたのですが、お店の兄ちゃんに勧められ、ロードバイクに変更しました。より軽量でタイヤも細く、ドロップハンドルの、レース仕様に近い自転車です。あまりの軽さ（約10kg）に驚きました。この軽さのメリットは坂道を登るときに実感できます。重たいママチャリとは雲泥の差です。

「アンタレス」という名前の、お店のオリジナル製品の赤いロードバイク（10万円）を買うことにしました。その他、購入した品は、輸行袋（自転車を折りたたんだり分解したりして入れる袋。これがあれば、これに入れた自転車を列車に持ちこみ、目的地の駅で再び組み立てて付近をツーリングするという、抜群の機動力ある旅行、すなわち「輸行」（りんこう）ができます）、ヘルメット、グローブ、ライト、スピードメータ、カギ、パンク修理などのメンテナンス道具です。自転車屋さんに相談して、自転車を使う目的やライフスタイルに合わせて、色々な小物を買えばいいと思います。晴れて自転車通勤ができるようになったら、ブリーフケースがわりに、リュックを買おうと思っています。でも、弁理士の仕事って、実は、職場まで手ぶらで行ってもOKじゃないのかな……？

### 買ったその日に40km 走る

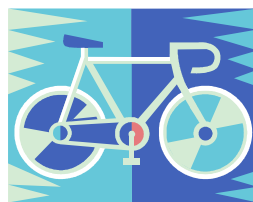
ロードバイクの場合、お金があっても、自転車屋

さんに行ったその日に自転車が手に入るわけではありません。身長や股下を計測してもらい、シートやハンドルの最適な高さを調べた上で、自転車を組み立ててくれるのです。さすがプロです。いよいよ納車の日、自転車を電車で運ぶための輸行袋をお店に持っていくのを忘れました。私が「ここ（港区）から日野市まで乗って帰れると思いますか？」と問うと、お店の兄ちゃんは「できますよ。僕、高尾山から板橋区まで自転車に乗って帰ったことがありますし」といとも簡単そうに言うではありませんか。つい魔がさして、乗って帰ることにしてしまいました。赤坂見附の交差点で、早くも、どちらへ行けば甲州街道に出られるのか分からなくなるという状態でした。交番のお巡りさんに道を訊ね、ひたすら西へ向かいました。一度道に迷い、拝島まで行きかけました。3時間以上かけて家にたどり着いたときは、40kmの道を自転車通勤なんて、到底無理だと身にしみてわかりました。

### あとは引越しだけ

職場に近いところへの引越しは、自転車通勤に目覚めるずいぶん前から考えていました。独身なのでどこへ引越そうと自由です。気に入った土地で自転車通勤ができれば言うことありません。自転車通勤に目覚めていなかったときは、引越し先の条件として、電車による通勤時間や駅から自宅までの距離ばかり気にしていましたが、自転車通勤となると、自宅から職場までの道路距離以外は、ほとんど問題にならなくなります。都心を颯爽と自転車で走る日はもうすぐです！

以上



## 地震が怖い！（防災用品あれこれ）



野田 薫 央 (PA会)

今年も各地で大きな地震が発生しています。神戸出身の私は、できるだけ防災用品を準備するように心がけています。しかし、実際に防災用品を買い揃えるのはなかなか面倒なものです。そこで、今回は私が準備している防災用品とその使い方について紹介させていただき、皆さまが防災用品を準備する際の参考にしていただければと思います。「ここまではいかないだろう」という物まで含まれていますが、一応ご参考まで。

### (1) 【身に付ける物】

#### <小型マグライト・小型ホイッスル・小型ナイフ>

私はキーチェーンでこれらを連結してポケットに入れてあります。

「マグライト」は夜間に被災したときや建物内に閉じ込められた際に使用します。

「小型ホイッスル」は倒壊した建物内に閉じ込められた場合等に生存していることを外部に知らせるために使用します。

災害現場では救助や治療の優先順位についてトリアージ（選別）がなされるため、生存の事実を外部に知らせなければ救助される可能性はずっと低くなります。そこで、少ない体力で高音を発するホイッスルを定期的に吹き、自身の生存を外部に知らせます。一方、大声では体力を消耗し、声が届く距離も短く非効率です。余震やヘリコプターの騒音の中で外部に自身の存在を示すためにはホイッスルが有益です。

「小型ナイフ」は、脱出道具としてや、怪我の治療道具、食事用具、護身具等、あらゆる場面で使用できます。ただし、平時には銃刀法違反にならないように十分ご注意ください。

### (2) 【普段持ち歩く物】

#### <レスキューシート・救急箱・マスク・携帯用浄水器・100円カイロ・タオル・紙とペン・飲料水・電池・現金（10円玉）・軍手・ライター・ビニール袋 等>

被災した場合に必要な性が高い物で、私は通勤用のかばんに入れて持ち歩いています。なお、通勤用のかばんも両手が使用できるリュック型であれば活動を制限しません。

「レスキューシート」とは保温性のあるアルミ素材のシートです。体温の保持やタープ（簡易テント）代わりに使用します。

「救急箱」には傷口を固めて殺菌するスプレーや、抗生物質配合の炎症止め軟膏、傷用シール、包帯、はさみ、鎮痛剤等を中心に準備します。

「マスク」は、倒壊した家屋から発生する大量の土煙によって喉がやられないように使用します。

「携帯用浄水器」は太いストロー型で、少しくらい汚い水でも飲むことができます。

「10円玉」は公衆電話で使用します。（災害時は無料でかけられる場合もあります。）

なお、携帯電話や自宅の電話は回線規制によってつながる可能性が低いですが、公衆電話は規制が緩く、つながる可能性もあります。

### (3) 【職場に準備するもの】

#### <保存食・飲料水・帽子・雨カップ・スニーカー・地図>

作事中に被災した場合に家まで安全に歩いて帰るための装備です。

災害時は通行できない道路が多く、風景も変わってしまうため「地図」があったほうが安心です。災害時に役立つ情報が入った地図が何種類か発売されていますので、それらが便利です。



#### (4) 【自宅の寝室の枕元に準備するもの】

＜懐中電灯(2個)・ラジオ・予備電池・バール・ジャッキ・ノコギリ・非常食・飲料水・靴・眼鏡ケース＞

主に就寝中に被災した場合に使用する装備です。

「懐中電灯」は、1つは電池式のもので1つはラジオ内臓の手動発電式のものであります。

「バール」は阪神大震災のときに友人が一番役に立ったと言っていたので大きくて頑丈な物を購入しました。自宅マンションが倒壊した場合の脱出等に使用します。

「ジャッキ」「ノコギリ」も同様に物に挟まれて動けない場合等に使用します。

「靴」は、立ち上がる前に履いてから行動を開始します。部屋内に散乱したガラスの破片で足を怪我をしないためです。厚手の靴下でも可です。

「眼鏡ケース」には普段使用している眼鏡を寝るときに入れて枕元に置きます。阪神大震災のときにも眼鏡を紛失・破損して不自由な避難生活を強いられた人が多くいました。眼鏡の方はご用心を。同様に財布も枕元に準備して寝ます。

#### (5) 【自宅の玄関等に準備するもの】

＜ヘルメット・消火器・飲料水用折り畳みポリタンク・タイヤ付き荷物カート・シュラフ・テント・浄水器・ロープ・ろうそく・簡易コンロ・懐中電灯・非常食・飲料水・食器類・衣類 等々＞

長期間の被災生活を可能にする装備です。仮に避難所に避難した場合でも必要に応じて自宅から装備を調達することが可能です。

「ポリタンク」は給水車から水を運ぶために使います。平時はかさばらないように折り畳める物が便利です。給水場が遠いときはタイヤ付きの荷物カートで運びます。

「浄水器」は手動ポンプ式でフィルター交換により数百回浄水が可能な物です。そんなに使うことはないと思いますが念のためです。

「簡易コンロ」や「食器」等は登山用のもので、ガスカートリッジを取り替えて使用するタイプです。

家庭用のカセットコンロと同じです。

#### (6) 【その他】

以下では防災用品以外について私が考えていることを徒然なるままにお話します。

・家族が連絡を取り合う方法を決めておくべきです。我が家では、直接連絡が取れない場合には神戸の実家に連絡をするか、伝言ダイヤルとメールを使用することにしています。被災地以外の地域には電話がつながる可能性があります。また、集合する避難場所も2つの学校を決めて、第一希望に到達できない場合は第二希望の学校に避難します。また、学校に避難した場合は、自分が休める場所を確保した後に「音楽室」に張り紙をして連絡をとることにしています。大量の被災者が押し寄せる避難所で自分の家族を見つけるためです。

・職場等から避難場所までのルートも事前に決めておきます。家族が戻らない場合は、後ほどそのルートを中心に搜索します。

・屋内の家具の転倒防止措置は必須です。様々な種類の転倒防止具が販売されていますので自分にあった物を選んで下さい。広い家に住んでいる方は、寝室には高さのある家具を一切置かないのが得策です。また、ガラス飛散防止フィルムを家中のガラス類に貼ればより安全です。

・消防署では多くの場合無料の救命救急講習を実施しているので、これを受講しておけば相当役に立ちます。

・せっかく防災用品を準備しても使用期限が切れていては効果も半減です。例えば毎年防災の日にはチェックする等の継続的なケアも必要です。

私の駄文にここまでつき合っていただきありがとうございました。これらの準備がすべて無駄になることを願いながら、今後も準備は怠らないようにしたいと思います。

以上

## 点字のボランティアで学んだこと



市 東 篤 (PA会)

だいぶ昔のことになりますが、耳の不自由な方々のまえで自己紹介する機会がありました。当然に手話通訳をお願いしたのですが、そのとき手話を全く知らなかったため、自分の言葉がどのように皆さんに伝わったのか不安になりました。自己紹介くらいは自分の言葉で、いや自分の手話で伝えることができるようになりたいと痛感した覚えがあります。

最近、点字のボランティアの方から、コンピュータの使い方に慣れていないので手伝ってほしいと声をかけられました。目の不自由な方々には当然自分の声を直接伝えることができるのですが、手話のときに痛感したことを思い出し、自分の言葉が点字でどのように表わされるのかにも興味があっってお手伝いすることにしました。

ご存知の方も多いと思いますが、現在、視覚障害者用の文字として国際的に用いられている6点点字は、1825年にフランスのルイ・ブライユによって考案されたものだそうです。これが日本の仮名点字に翻訳され、さらに1989年に正式な学校教育に採用されて添付表のような現在につながる『日本訓盲点字』となったのだそうです。

現在では、通常の一般の文字（点字の分野では墨字と呼ばれています）の入力方法と同様の方法（例えばローマ字入力）で点字を入力できる点字ワードプロセッサが、インターネット経由で簡単に入手することができます。また、墨字と点字との間の自動翻訳ソフトウェアも比較的安価で入手することができます。したがって点字ボランティアのお手伝いを引き受けた時は、ワードプロセッサで作成した墨字の文書さえあれば、その墨字文書を自動翻訳ソフトウェアで翻訳し、翻訳の誤りを点字入力ソフトウェアで多少訂正すれば点字の文書に変換することができる、と考えていました。ところが、実際にお手伝

いを始めると、点字文書への変換は思いのほか手間のかかる作業であることが分かりました。

一番の難しいと感じたのは点字の区切りです。6点点字では漢字を直接表わすことができないので、基本的には全て仮名で表わすこととなります。仮名だけの文書を想像していただければ分かるように、適当な箇所に区切りがなければ名詞や動詞と助詞・助動詞などとの区別も容易ではありません。このため、点字文書では読みやすいように意味に応じて分ち書き（区切りにスペースを設けた書き方）が決められています。例えば、麦藁帽子は『ムギワラ□ボーシ』と表わし、綿帽子は『ワタボウシ』と表わします。墨字では同じ帽子と表わす場合でも、点字では分ち書きする場合とそうでない場合とがあるので、自動翻訳ソフトウェアでは分ち書きを完璧にすることができません。人手による訂正が必ず必要になります。

また、漢字で表わされた墨字を仮名に変換する作業も、なんでもない作業にみえて実は大変な作業です。例えば、中国・韓国の地名や歴史上の人物の名前は、墨字のワードプロセッサでは正しい読み方を入力しなくても漢字に変換することができますが、点字では正しい読み方としなければなりません。このため、地名や人物の名前、薬や動植物の名前については、どうしても事典などで読み方を確認しながら訂正する必要が生じます。さらに、例えば三角形を『サンカクケイ』と表わすか『サンカクケイ』と表わすかが問題となることもあり、そのたびに国語辞典に当たる必要が生じます。

このようなわけで、今回の点字ボランティアのお手伝いでは、分ち書きや正しい読み方などを通じて、何気なく使っている通常の言葉の意味を改めて学ばされることになりました。外来語の仮名使いや

分ち書きに関しても、学ばされることが非常に多くありました。

わたしは、特許明細書の作成を主たる仕事としています。とくに特許請求の範囲の言葉については、発明を明確に且つ簡潔に記載しなければならないので、非常に気を使うのは皆さんも同じだと思います。できるだけ読みやすい言葉をつかうように心がけて

いるのですが、ときに読みにくいという声を聞かされることもあります。特許の公開公報などが実際に点字に翻訳されて利用されているのかどうか知りませんが、今回のお手伝いで学んだことを参考にしながら、自分の記載した特許請求の範囲を一度点字に翻訳することを試みたいと思っています。

以上

点字の記号一覧（凸面）

直音（清音・濁音・半濁音）など

あ	い	う	え	お					
か	き	く	け	こ	が	ぎ	ぐ	げ	ご
さ	し	す	せ	そ	ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
た	ち	つ	て	と	だ	ぢ	づ	で	ど
な	に	ぬ	ね	の					
は	ひ	ふ	へ	ほ	ば	び	ぶ	べ	ぼ
					ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ
ま	み	む	め	も					
や		ゆ		よ					
ら	り	る	れ	ろ					
わ	ゝ	ゞ	を						
		ん	っ	ー					

ん（撥音符）      っ（促音符）      ー（長音符）

社会福祉法人資格障害者支援総合センター発行『最新展示標記辞典』より

## 夢



吉岡 宏嗣 (無名会)

ハリケーン・カトリーナによってニューオーリンズが壊滅的な被害を受けたニュースを聞き、ミシシッピ川を外輪船で船旅する長年の夢を思い出した。

ニューオーリンズはジャズが生まれた地であり、ディキシー、スイング、R&B、ビーバップ、クール、モダンと発展しながら世界を制覇したのはご承知のとおりである。その伝達ルートの中には、おそらく、ミシシッピ川が重要な位置を占めていたものと想像する。ミシシッピ川は全長数千Kmのアメリカ最長の川であり、河口近くのニューオーリンズから遡ると、ミシシッピ州とルイジアナ州及びアーカンソー州との州境を通過してメンフィスに至り、さらにミズーリ州とテネシー州及びイリノイ州の州境を通過してセントルイスに至り、さらにカナダの国境近くの源流に至る。ミシシッピ川の川幅は河口でも狭いが、水深が深いために物資の輸送路として栄え、今でも外輪の蒸気船(懐かしのミュージカル映画「ショーボート」に登場する蒸気船)が行き来しているようである。因みに、メンフィスは、エルビス・プレスリーが育った町であり、ミシシッピ川の流域には、ポップスなどに登場する町や州が多く、懐かしさを覚える。

40年以上も前の大学時代、東京にはモダンジャズをレコードで聞かすジャズ喫茶があちこちにあり、若者がリズムに合わせて体を揺すって瞑想していた。当時は、モダンジャズの良さが解らないのはインテリでないという雰囲気があり、私も、良さも解らずモダンジャズにかぶれてジャズ喫茶に行っていました。

高校時代は、アメリカのポップスを日本語に置き換えた歌が流行り、坂本九もそんな歌手の一人でした。また、テレビもアメリカのドラマや西部劇が主流で、アメリカの豊かさや文化にあこがれた青春である。特に、私は映画好きで、西部劇に限らずあら

ゆるジャンルアメリカ映画を手当たり次第に観ていました。その影響で旧き良き時代のアメリカに馴染み、FMラジオでアコーデオン、ヴァイオリン、ギター、バンジョウの奏でるカントリーウエスタンのハーモニーに何故か懐かしさを感じ、ニューオーリンズで生まれたジャズの古典的なディキシーランドジャズに心が洗われる思いをします。

私は、元来、観光旅行は好きでなく、大自然の中で息をしたり、古い歴史のある町のたたずまいの中で、ボーっと人々の生活を眺めたり、思考をめぐらしたりするのが好きなタイプである。中学生のとき、周囲の反対にあって諦めざるを得なかったが、キャンプしながら自転車でも摩川を遡る計画を立てたことがある。唯々、自然に対する渴望感、現実からの逃避、遊び、地理的な興味、等々、高等な興味は何もない。

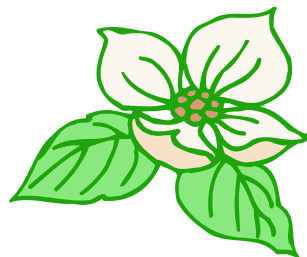
20年近く前は、モータバイクに1人用のテントを積んで、あちこちでミニキャンプをしながら、自然をエンジョイするのが好きだったが、いろいろな理由から、ここ20年近くご無沙汰している。一番の思い出は、北海道の東半分を約10日間かけてバイクツーリングしたことである。当時は、ホンダのナナハンに乗っていたが、重すぎて砂利道で停止してバイクが滑ると、自力で支えられずしばしば倒して恥ずかしい思いをした。そこで、重量の軽いヤマハの単気筒500に乗り換え、東京の竹芝桟橋から船で2泊して釧路まで行き、帯広→層雲峡→旭川→宗谷→紋別→網走→知床半島→屈斜路湖→阿寒湖→釧路のルートでツーリングして東京に戻った。途中、屈斜路湖と阿寒湖でキャンプし、野生のキタキツネに出会ったり、アイヌの生活を垣間見たり、現地のキャンパーが大鍋で花咲蟹を茹でて食べているのを羨んだり……。北海道の良さは、どこまでも続く大平原、

大草原に加えて、あちこちにある広大な原生花園の素晴らしさであり、老後は北海道に住みたいと思う人が多い。特に、北海道は、雪の季節が長く夏が短いため、春から夏にかけて自宅の周りに花を一杯植えている家が多く、その土地の人々の生活を羨ましく思う。しかし、その反面、半年近く雪に埋もれる自然の厳しさに耐えなければならない姿を想像すると、躊躇するところである。

10数年前、ラスベガスを基点として、西部劇にしばしば登場する有名な風景であるモニュメントバレー、グランドキャニオン等のナショナルパークを巡る旅をした。そのとき、先々で、キャンピングカーに乗ってアメリカ大陸を横断しているのかな？と思われるグループに出会った。また、街道沿いのモーテルに泊まったとき、大型バイク（BMW）に乗っ

てルート66をツーリングしている二人連れに出会った。ルート66は、今では側道になったようであるが、私らの世代にはポップスで聞いた懐かしい、遠い青春に思いを馳せるサウンドであり、何時の日かバイクでルート66をツーリングする夢が生まれた。しかし、その夢は、少なくとも3～4週間の暇ができ、かつ、体力的に衰えないうちに実現しなければならず、未だに実現していない。

これに代わる夢が、ミシシッピー川を外輪船で船旅することである。船旅ならば、体力的に衰えても実現できそうだというのが理由である。いずれにしても、3～4週間の暇ができなければ実現は難しいから、青春への回帰の夢は、当分の間実現しそうにない。





## ル・マン徒然草



津久井 照 保 (無名会)

古いクルマを見るとワクワクしてきます。そんな私が同好の仲間と共に2002年の「ル・マン クラシック」に行ったときの話をブログ風(?)に仕立ててみました。

### 9月20日 (金)

ラッシュ・アワーの電車も無事に乗り越えて、予定とおりに成田空港に到着。

関空から出発する岡山の塩〇さんを除くと、成田出発組には、坂〇さん、石〇さん、染〇さん、佐〇さん、金〇さん、それに小生の6人が旧知の仲間。

パリでのホテルは、エッフェル塔の直ぐ横のホテル。

ミネラル水を求めてトコトコとかつて知ったる路地をうろつき、ついに入手。十年近く前に訪れたパリのスーパーマーケットを覚えているなんて！

### 9月21日 (土)

「ル・マン クラシック」は、これが第一回目のイベントとは思えないほどの盛況。

62台×5カテゴリーの300台余。各カテゴリー共62台、ということはアシキリがあったはずであり、本当の出場希望車(者?)はさらに多いことになるのだ！

スタートは懐かしいル・マン式だ。2カテゴリーの車には親しみを感じるものもあるが、やはり年代が自分の同じ3カテゴリー以降の年代の車が好み。

ホテルへ出発の時間が近づく。1カテゴリーと2カテゴリーのスタートだけは何とか見たが、そこで時間切れ。後ろ髪を目一杯引っ張られながら集合場所に向かってトコトコ。

徹夜組に変更してサーキットに残ろうかと、午後3時頃までは考えていたが、パサパサのサンドイッ

チ(フランスパンにハムを挟んだだけ)とビールで徹夜することを想像したら、あえなくホテル組に舞い戻った次第。この頃は体力と気力が…。

### 9月22日 (日)

朝、ホテルの近くを散歩。とは言っても、まずは駐車場の車をチェック。

ルノーアルピーヌが2台、TVRが1台、フェラーリが1台…。

サーキットに到着すると、プログラムは1時間の遅れ。ということは、憧れのカテゴリー4と5のレースが見られる。

ポルシェは特別な車種でなくても速い。これが、今なお多くのチームが好んで採用して出場する所かもしれない。優勝こそは難しいけれども、そこそこの結果が安価に獲得できる。

フェラーリに比べて完走の確率が高い。

レースの運営では、さすがにル・マン。オフィシャルのレベルが違う。これも文化の違い、歴史の違いか！

フラッグを出すタイミングはもちろんのこと、状況判断も適切。それでいて、格別の緊張、あせりもない。職務に忠実。慣れが良いほうに作用している。日本のマーシャルとはここが違う。

ポルシェの906や910のフルスロットル時のエグゾーストノートも初めて聴くことができた。また、スピンも見たし、それでコースが汚れて後からきた車がスピンしたりコースアウトしたりするシーンも見られた。前後のカウルを全損してしまったローラのドライバーさん、同情申し上げます。

今日でル・マンとはお別れ。レンヌの街へ。

## 9月23日（月）

今日は、ロエーク自動車荘園へ。

荘園というほどだから膨大な敷地に石造りの大きな館がいくつも連なって立てられており、その中に、クラシックカーから F-1マシンまでがびっちり詰まっている。全部を見ようとすると、とにかく疲れる。疲れたならば、所々に設けられた昔風の酒場でコーヒブレイク。

その酒場には大きな自動演奏のパイプオルガンが設置されている。管楽器やパーカッションも組み込まれていた。コインを投入すると、プカブカドンシャカ、音量もすごい！

午後は水陸両用車のアンフィカーに乗る。

自動車展示の館の前にある大きな池の中へ加速しながらザブーン。惰性で少し進んでからギアをスクリー側に切り換える。クルマで池の中を走る感覚はちょっと違和感があるが一興である。

対岸ではガチョウが迷惑顔で泳いでいる。

その後のサーキット走行は面白かった。

クルマは、荘園のオーナー（HOMMELL さん）が経営する会社のもの。軽くレーシングチューンした2台のクーペ。

助手席でも十分な加速、減速。横Gも強く、バケットシートで腰が保持されているからなんとかなったが、普通の車のシートでは身体がどこかへ吹っ飛んでしまうだろう。

コーナーでは、ドライバーのサービス精神発揮(?)で「キーー」という派手なスキル音と共に大カウンター大会。

今回は助手席だったが、次回は、是非ともドライバー席でステアリングを握ってみたい。

今回の旅で笑える話の1つになるであろう、今日のホテル。とにかくトイレがすごい。木製の洋式で肘掛が付いて、その肘掛には灰皿が備え付けられており、便器の蓋を開くとオルゴールが鳴る。用を足すたびに「チンチロリン」ということになる。使用中をメロディーで知らせるのかな？ でも、扉は足元が丸見えの中国式トイレと同じ。

夕食は荘園のオーナー主催の歓迎レセプション。鴨が出た。量もたっぷり。

## 9月24日（火）

午前中は工場見学。

ホワイトボデーが十台弱。プジョーのエンジンもそれくらい転がっていた。組み立て中は4台。

アルミ板をタブ状にリベット止めしてこれにパイプフレームを前後に付加するとともにタブにロールバーを固定した簡単なボディー構造。エンジンと足回り関係をパイプフレームに固定して、これにFRP製のボディーカウルを被せて完成という手順のものらしい。作業者の数は意外と少ない。後で聞いたところによれば15名。モロ零細企業！

工場見学を終えると村のレストランで遅い昼食。またしても、当然のごとくワイン。ワインといえば、サーキットで行われていたレーシングスクールの連中もワインを飲んでいた！ これがフランス流？ プロストやアレジもそうだったのかな？

ゆっくりとした昼食を終えると、午後2時半。

これからは一路パリに向けてバスの旅。

殆どの人は酔いもまわって夢見心地。「隼」をドライブしている夢？

「隼」は、サーキットを気持ちよく周回していたレーシングスクール車。スズキの「隼」のエンジンをミッドに搭載して後輪をチェーン駆動。したがって、バックギアはなし。FRPのクーペボディーを被せた超軽量四輪レーシングカー。エンジンはバイク用なので吹け上がりは抜群。軽量なのでかなりの加速力。おもちゃとして抜群！ 欲しい！

パリには予定よりも早く到着したので、まずは牡蠣と白ワインで舌鼓。前回のパリでの牡蠣よりも美味かった。これならOK。通常の細長い殻の牡蠣も美味かったが、殻が円形の牡蠣(?)も出てきて、これはちょっと身が小さめだったがあっさりしていて美味かった。ムール貝も食べたが、やはり牡蠣の方が美味しい。

## 9月25日（水）

今日はシトロエンカルノーコレクションが見られるかもしれないと期待していたが、結局、許可が出なかった。そんな訳で仕方なく、一人でオルセー美術館へ。

モネの「日傘をさす女」が左右二枚並んで展示してあるのを見たら、感動!!!

その横にはルノワールの「ピアノを弾く娘たち」!!!

その部屋の藤椅子に座って一時放心状態。

「アー、来て良かった。」 解説によれば、「ピアノを弾く娘たち」は政府の要請でルノワールが6回も書き直して最後の絵を納めたので、他にも同じ絵が5枚あるという。笠間の日動美術館で観たものはどれかな。

オルセーを出てからはセーヌ川沿いにトコトコ歩き、コンコルド広場を抜けてフォーションに寄り、お土産を確保。そこからホテルまで歩いたが途中で一度道に迷ってしまった。パリの路は、各交差点での特徴に乏しく分かり難い。

#### 9月26日（木）

あっという間の一週間が過ぎ、今日は帰国。

大阪組は7時45分の出発で慌しいようだが、我々東京組はゆっくりと出発。

チェックアウトしたら、残金は10ユーロのお札が

一枚とコインが少しだけ！

コーヒー代がないと空港でみじめな思いがするからなあ。

#### 9月27日（金）

無事に成田到着。明日からは現実だあ！ シゴトが待っている！

オシマイ



## 久々のパテント杯



高橋 俊 一（無名会）

皆さんは、パテント杯というものをご存知だろうか。パテント杯は、特許庁、特許事務所をはじめとして、我々特許業界に関係する各種団体や企業が参加して行う親睦を目的とした野球のトーナメント戦であり、かれこれ42年の歴史がある大会です。大ベテランの先生方にお伺いすると、懐かしげに「俺も若いときにはやっていたよ。」とのお答えが帰ってきます。毎年40チーム位が参加し、荒川の河川敷にある日陰の全く無いフジサンケイグラウンドにおいて、真夏の非常に暖かい8月の第一週の土曜日から始まり、9月いっぱいにかけて略毎週土曜日に行われており、この原稿を執筆している現在が大会の佳境に入りつつある時期です。

小生は、このようなパテント杯に、昭和60年頃から（事務所の方針により）参加していましたが、寄る年波と幣所における若手選手層が充実したため戦力外と自己判断して、ここ5年程はパテント杯から遠ざかり、穏やかな夏を過ごしていました。

ところがである。6月に事務所から、「もう1チーム作るから参加せよ」とのお達しが来た。聞くところによると、現在あるチームが充実したことでレギュラー陣が固まってしまい、レギュラー以外の部員の出番がないので、それらの部員のために本来の親睦を目的としたチーム（言わば2軍）を結成して出番を作るためだとか。ただ、もう1チーム作るとなると、若干選手数が足りないということである。「今更ながら小生などが出る幕ではないでしょう」と笑って言いながら逃げたいところではあったが、宮使えの立場としては如何ともし難く、結局は参加する羽目になってしまいました。

野球から離れて5年、もう使うことはないと思っていたユニフォームやスパイクなどをやっとの思い

で探し出し、ハード面での準備はできたものの、ソフト面である身体的な準備を二ヶ月弱でやらなくてはいけない、と思いつつも忙しきにかまけてバッティングセンターはおろかランニングさえすることなく、8月6日の初戦を迎えることになってしまった。考えてみれば、無謀な話である。若い時には、それまでに蓄積してきた体力と持ち前の運動神経でうまくこなしてきたが、流石に今は同じようにいく訳がない。ベース間を転ぶことなく全力疾走できるか、ミスすることなく守備ができるか、うまくバッティングができるか、それ以上に、ここ数年ゴルフしかしていない身体で炎天下において野球のような激しいスポーツをして無事生き残れるか、不安は山積みでした。おまけに、グラウンドに来て、やっとな探し出したスパイクを履き、軽くジョギングしてみると、靴底の樹脂でできていたスパイク部分が劣化により割れて剥がれ落ちてしまい、靴底が直足袋のような状態になってしまった。購入から20年近くにもなるので致し方ないと思うが、久々に出場する試合前のアクシデントなので、縁起ワル〜。

先発発表は、いかにも急ごしらえのチームらしく、試合開始直前にあり、小生は1塁で打順は2番であった。以前は、1塁または2塁を守っていたが、グラウンドに来てやった軽い練習で5年振りにキャッチボールをした程度。「野手の皆さん、受け易いボールを投げてね」と内心で祈った。なお、相手は、某企業のチームであり、かなりのベテラン揃いであることが明白であり、いかにもこちらが胸を借りるという感じでした。

草野球では、通常、バッテリーの良し悪しが試合の流れを大きく左右するが、パテント杯においても、ベストエイトクラスのチームの試合になれば別だが、1, 2回戦あたりではこの傾向が著しい。特に、ス

トライクが入らずにフォアボールを連発して点を取られてしまうことが珍しくなく、いかにフォアボールを出さないかで勝敗が大きく左右する。初戦の結果は、我が方のチームが相手チームよりもフォアボールの数がやや多かったためか、善戦するも勝利するには至らなかったが、チームとしては記念すべき第一戦となった。

小生としては、内野フライの落球という厳罰もののミスが2つあったが、転ぶことなくベース間を全力疾走でき、また1打点を挙げることができ、何よりも無事に試合を全うすることができたことが幸いであった。ただ、何年も未使用だった筋肉を突然使ったことで、後日筋肉痛に見舞われることは覚悟していた。悲しい現実だが、この年になると、筋肉痛は、若い時のように翌日に出るのではなく、翌々日に出るようになっており、予定では8月8日の月曜日に出ると思っていた。

さて、その8月8日の朝、何やら首と背中が痛い。痛いながらも起き上がり、朝のうがいをしようとする、な、な、なんと首を後ろに反らすことができない。先週の野球のせいなのか、それとも単なる寝違えなのか、原因がわからない。今までにはなかったことである。家内は、ヘルニアではないかと、物騒なことを言い出す始末。だが、場所が場所だけに、

本当にそうだとしたら怖い。ただ、今までの筋肉痛での経験からすると、数日すれば自然に収まってくると思い、サロンパスを数枚貼って事務所に出かけたが、痛みが一層ひどくなり、特に首の痛みがひどくなった。帰宅後、就寝する時には、首の痛みで布団から起き上がる、寝返りを打つことが極めてしんどい状態になってしまい、よく眠れないまま一晩を過ごした翌朝、仕方がなく整形外科のお世話になることになってしまった。見立てでは、首への負担が集中した結果による一時的なものであり、何か対応が急がれるということではないとのことで、一安心であったが、原因としては、やはりソフト面である身体的な準備を何らせずに急に野球をやったことで身体が予想外の反応を示したのではないかとのことであった。幸いにして、この原稿を書いている今では、痛みも治まり、首も元に戻っている。

今年は、我がチームは急造であり、何事においても噛み合わないことが多かったが、来年のパテント杯開催時には、大きく成長した姿になっているはず(?)である。小生も、今年間に合わなかったソフト面である身体的な準備を今から整えるようにして、首あるいは腰といった大事な部位に支障が出ないようにして、支障が出ても単なる筋肉痛程度に止めておきたいところである。





## 三位一体



村上友一（無名会）

### きっかけ

トレーニングジムに通い始めた。もともとの生活習慣の関係でそれまでも十分な限界値であったにも拘わらず、昨年の暮れから年初にかけての宴席に休まず通い続けたツケが回ってきたらしい。

### 昔は……

だいぶ以前に、ある客先の担当者と雑談しているときに、趣味が「歩くこと」と聞き、最初は散策と勘違いしていたが、いわゆる早歩きによって体力を維持しているとのことであった。そんな話も忘れたころ、デスクワーカー辺倒のせいか、腰痛が出始め、背骨の痛みも加わってきたのである。整体やマッサージ通いをしていたが、どうも良くならない。整形外科を尋ねても骨に異常はないとのこと。結局、運動不足と気づき、ゴルフクラブの素振り練習を始めたが、マッサージ師に、「腰痛を直すには正しい姿勢で歩くことが一番効きますよ」と言われたこともあって、素振りの前に歩くことにした。自宅から40分の早歩きである。これが効果てき面で、体の痛みは取れ、無駄肉が消滅する。当時の写真を見ると、男っぷりが上がったのが良く解る。10年以上前のことである。だが、「継続は力なり」とは言うものの、歩き始めて1年半ほどで自然消滅してしまった。

時が経って、生活習慣が元に戻ると、あっという間に望んでいる体形からかけ離れてしまう。いろいろ理由を付けては飲食の機会を自ら探してしまうから、なおさらである。しかも、昨年暮れからの暴飲暴食により、体重が閾値を超えてしまったのである。さすがに、これではまずいと思い、強制駆動方式を採用した。ただひたすらネズミ車のように、ベルトの上を歩くことがメインであるが、3ヶ月ほどでだいぶ効果が現れてきた。めざすは、しなやかな肉体

である。

### 三点セット

ところで、スポーツの世界、特に相撲界で「心技体」という言葉が使われる。いわゆる、強い精神力と、高い技術、強靱な肉体が必要ということであろう。勝負の世界で勝ち残ろうとするなら、体だけ鍛えてもダメで、これに負けない勝負強さをもつ精神力と、相手に負けない技術力をつけろ、ということである。ただ、一流の運動選手を目指しているならともかく、普通の生活の場面では、「心技体」を鍛えるという場面は直接的に必要としない。一般解を求めれば、健康な体の維持とともに、適正な判断力を失わないように知力を鍛え、綺麗なものにすなおに感動するという感性を失わない心を持つことになろうか。体と頭と心を三位一体でバランスのよい関係に築き上げることが必要である。

弁理士という職業柄、判例や論文を読んだり、研修に参加したり、あるいは新技術の学習などを怠ることができない。その点では、知力を鍛える機会に接しているのは日常的なこと？である。しかし、仕事とは別の次元にある「感性」についてどうする？と考えた結果、音楽をしようと思い始めたのは、ここ最近のことである。昔、ブラスバンドでテナーサクスを担当していたこともあって、手ごろなサイズのアルトサクスを再開することに決めた。音楽教室に体験レッスンで行ってみたが、音はでるものの演奏できるまでは、ほど遠い練習が必要であることが判明した。しかし、ケニー・Gと共演できることを夢見ながら継続してみようと思う。少なくとも子供に感動してもらえれば最高である。

三位一体

思うに、物事を成し遂げるには、知力・体力・精神力といった3つの要素を掲げ、三位一体ということが多い。三位一体とは、もともとキリスト教の教理で、神とキリストと聖霊の三者は同質・不可分ということの意味表しているとされている。ただ、一般的には、ある目的を達成するための必要な3点セットを掲げることが多い。政治の世界で三位一体改革などと言われていることもそうである。最近では、企業の世界でも、事業戦略、研究開発戦略に知的財産戦略を加えた「三位一体」の経営を実践して知財先進企業を目指すといったことが言われている。同様に、弁理士を含む知財人材育成に関し、経営戦

略、研究開発戦略、知財戦略の三位一体ができる人材の育成が必要である、と表明している資料も見られる。しかし、それぞれ1つの要素を取り上げても、実践して効果を上げることは大変である。組織運営の場合も、代表者、執行役員、構成メンバーがそれぞれの役割を果たすように三位一体で機能しないとうまくいかないと思われる。

結局、目的を明確にして、その実践のための要素を3点掲げ、これらを三位一体でバランスよく成長させることが必要である、ということか。

取り敢えずは、演奏会を目指してアルトサクソに没頭してみようと考えている。

